

Yawaragi

Gakushuin Women's College

VOL.25
2022年度



2023年3月

Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第25号

2022年度

Contents

- P. 2 目次
- P. 3 学長挨拶
- P. 4 学習院女子大学シンポジウム：ポストコロナのリベラルアーツ教育と本学のサバイバル
- P. 5 学習院女子大学シンポジウム：『学際的な「知」が拓く持続可能性～「地域」から考える～』
- P. 6 ルワンダオンライン国際協力研修 ー目から鱗が落ちる学びと体験ー
- P. 8 再開された中欧国際協力研修ーオーストリア・クロアチアを訪れてー
- P. 10 令和4年度 特別授業の紹介
- P. 12 教職課程について
- P. 13 国際学研究所だより
- P. 14 学習院女子大学学会より
- P. 17 新任専任教員紹介/客員研究員受入一覧
- P. 18 留学生報告
- P. 19 海外留学報告
- P. 20 国際交流推進センター行事報告
- P. 21 留学制度について
- P. 22 輔仁会団体紹介
- P. 23 輔仁会団体紹介/雅祭を終えて
- P. 24 「和祭」を振り返って
- P. 25 学習院女子大学の就職力
- P. 26 キャリア・就職支援
- P. 27 内定者からの声
- P. 28 専任教員紹介
- P. 29 専任教員著書紹介
- P. 30 図書館からのお知らせ
- P. 31 保健室より/カウンセリングルーム(C.A.T.ルーム)のごあんない
- P. 32 学習院女子大学データ/学習院女子大学入学前予約型給付奨学金「やわらぎ奨学金」について
- P. 33 令和5年度学年暦/令和6年度105分授業の導入について
- P. 34 学習院父母会の近況報告
- P. 35 草上会について
- P. 36 Topics 2022
- P. 39 学女PRアンバサダーについて



学長挨拶

学習院女子大学長 大桃 敏行

学習院女子大学の教育 次のステージへ

皆様、ごきげんよう。

本学は一九九八年に学習院女子短期大学を改組して創設されました。創設において国際文化交流学部を設置し、国際化を進めるとともに、多様性に開かれた教育、学際的な教育を行ってきました。本学教育のこの基本形を維持しつつ、大学創設から四半世紀を経るなかで、次のステージに向かいます。具体的には、次の三つを柱とするカリキュラム改革を進めます。

データサイエンス教育プログラムの新設

一つ目はデータサイエンス教育プログラムの新設です。Society5.0やデータ駆動型社会への移行が言われるなかで、データサイエンスに関する理解が文系・理系を問わず広く求められています。高等学校で「情報」が必修化され、大学入学共通テストでも「情報」が導入されます。

本プログラムでは、データサイエンスを学ぶことの楽しさを知り、理解を深め、使いこなすことのできる力の育成をめざします。自らの選択で学習を深めていき、所定の単位を修得するとプログラム修了証が授与されます。文部科学省の認定(MDASH Literacy)への申請も予定しています。このプログラムは二〇二三年度にスタートしますが、それ以前に入学した人も必要単位を満たせばプログラムの修了が認められます。

国際的・学際的な学びの強化

二つ目は国際的・学際的な学びの強化です。グローバル化が進む

現代社会において、地球的視野で国内外の課題を考察していく力、複雑に結びつく諸課題を学際的に考察し解決を導いていく力の育成が求められています。海外とつながる授業や海外研修の増設、自治体の課題に国際的で学際的に取り組む科目などの新設によって、本学が培ってきた国際性と学際性をより強化し、このような力を育成していきます。

現在カナダのレスブリッジ大学と同時授業を行っていますが、韓国の誠信女子大学とも同時授業を開始し、オンラインとリアルの両方で課題探求解決型の授業を進めます。また、これまでも体験的で実践的な海外研修を組んできましたが、タイ・ラオス研修を設けて拡充をはかるとともに、SDGsの達成や地域活性化の課題に学際的に取り組む科目、多様なアプローチで日本を掘り下げる科目などを新設します。

探究的で実践的な学びの深化

三つ目は探究的で実践的な学びの深化です。それぞれの授業で探究的な学びを深めていきますが、あわせて本学独自の授業科目

「インディペンデント・スタディ(課題研究)」を新設します。これは国際的で学際的な科目(「多文化学際科目群」の科目)の履修を前提とし、そこで関心を持ったテーマや学問分野、それに関わる職業領域などについて自ら課題を設定して探究を行っていくものです。

探究の過程で得た知識や経験は、就職時だけでなく社会に出た後のキャリア形成にも活かすことができます。このことと関わって、この授業では、本学での学びと職業体験に関する卒業生によるミニレクチャーも予定しています。

以上の改革を進めることにより、教育課程の一層の充実をはかり、予測が難しい時代を生き抜いていく力、他の人と協力し合いながら新しい社会を構成していく力を育んでいきたいと思えます。ご期待ください。



学習院女子大学シンポジウム

～ポストコロナのリベラルアーツ教育と本学のサバイバル～

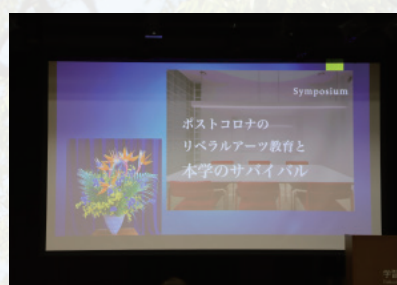
副学長 日本文化学科 教授 内野 儀

2022年5月28日、やわらぎホールにおいて、シンポジウム「ポストコロナのリベラルアーツ教育と本学のサバイバル」を実施しました。少々刺激的にすぎるかもしれない副題がついていますが、本シンポジウムの目的は、本学のさらなる発展のために目指すべきリベラルアーツ教育とは何かについてできるだけ前向きかつ具体的に考えることにありました。同分野に造詣が深い文化人に加え、第一線で活躍中の実務家や教育者をお招きしました。パネリストは、登壇順に、Impact Access代表取締役社長の日下部裕美子氏、芥川賞受賞作家の藤野可織氏、京都橘大学教授の近藤隆則氏、山脇学園中学校高等学校校長で本学の外部評価委員でもある西川史子氏、劇作家・演出家で芸術文化観光専門職大学学長の平田オリザ氏でした。当日は、(1)オープニング・リマックス、(2)パネルディスカッション、(3)フロアとの対話の3部構成とし、活発な議論が展開されました。

投資銀行や国際機関で活躍した後に、現在は産学連携でイノベーションを促進する会社を経営する日下部氏は、混迷する時代にグローバルに活躍するためのリベラルアーツ教育の重要性を語られました。藤野氏は、女性でありながら自分のうちにある女性蔑視の考えに気づきフェミ

ニズムの思想に多くを学ぶことになった経験を踏まえ、女子大学の意義を指摘されました。20年以上の銀行勤務を経て大学教員になられた近藤氏は、「教養は何の役に立つか」「教養を学生に浸透させるにはどうしたらいいか」という二つの問いを軸にリベラルアーツと実務が深く接続していることを力説されました。山脇学園の西川校長は、「社会とのつながり」と「多様性」をキーワードに積極的に進めてこられたご自身の取組について語り、教育機関も常に進化する必要があることを強調されました。平田氏は、兵庫県立芸術文化観光専門職大学の初代学長の経験を踏まえ、日本における教養教育の重要性と課題の解決策について語られました。

シンポジウムを通して、前身の短期大学以来長年にわたり一貫して丁寧にリベラルアーツ教育を実施してきた本学に対する期待と可能性を感じるとともに、本学の伝統と強みをどのように活かすべきかを考えるヒントを得ることができました。本プロジェクトは創立150周年を見据えた「学習院VISION150」の一環として2027年まで継続します。2023年10月7日にはグローバルな視点からリベラルアーツ教育について議論する国際シンポジウムを開催する予定です。引き続きのご支援をお願い申し上げます。



学習院女子大学シンポジウム

学際的教育と地域活性化・SDGsを連結させる シンポジウム『学際的な「知」が拓く持続可能性 ～「地域」から考える～』

副学長 国際コミュニケーション学科 教授 莊林幹太郎

学習院女子大学は2022年度から開始した6か年の中期計画において「10本の柱(実施計画)」を策定し、高等教育機関としてより高質の教育の提供を図ることとしています。10本の柱のなかで、『「グローバルで多様性に開かれた学びの空間」を地域とつなげる』を設定し、本学の学際的リベラルアーツ教育を地域活性化やSDGsと接続させる取り組みを推進することとしました。必然的に分野横断型にならざるを得ない地域活性化や、個別のゴールやターゲットの統合的な達成の重要性が強調されるSDGsの取り組みと、学際的教育の親和性が大きいと考えることが、この「柱」設定の背景にあります。

この取り組みのキックオフとして2023年1月7日に、シンポジウム『学際的な「知」が拓く持続可能性～「地域」から考える～』を開催しました。地域活性化のための政策の企画立案を多年にわたり総務省などで担ってこられた武居丈二前全国町村会事務総長(元総務省地域力創造審議官)から「地域活性化における統合的アプローチの重要性」について、また地域活性化やSDGsの達成に最も深くかかわる農政の多面的な側面の統合性を重視してこられた末松広行東京農業大学教授(元農林水産省事務次官)から「食・農・環境・エネルギーを統合的にとらえる」についての基調講演をいただきました。いずれのご講演も、地域活性化やSDGsの達成のためには分野横断的な視点やそれらを統合する姿勢が重要であること、地域を変えることが日本全体をよく

することにつながる、などについての貴重な示唆をいただきました。さらに、本学を代表して越塚美加日本文学学科教授が、図書館が知の拠点として地域活性化に貢献する可能性について「図書館から地域を変える」として講演しました。

3名の基調講演者に、福井県池田町の杉本博文町長、山梨県小菅村の船木直美村長、本学大桃敏行学長が加わりパネルディスカッション「学際教育・研究は地域活性化・SDGsの現場にどのような貢献ができるのか?」を実施しました。杉本町長及び船木村長よりそれぞれの地域における地域活性化に向けた革新的な政策や取り組みをご紹介いただくとともに、パネリストの皆様から、本学の学際的教育やそのもとで学ぶ学生に対しての、地域活性化やSDGsの達成に向けての期待について貴重なご意見をいただきました。

今回のシンポジウムには、年明け早々の最初の週末であったにもかかわらず学生・卒業生の皆様、学外の皆様などから約70名の事前申し込みをいただきました。今回のシンポジウムを通して、地域活性化やSDGsの達成のためには多くの課題があるものの、そのような課題に「統合的」な視点で取り組むことに大きな知的挑戦や学びのチャンスがあることを、参加者の皆様と共有できたのではないかと思います。そのような経験を、次年度から開講する地域活性化とSDGsに関する新規科目の運営にも反映させていきたい、それが本学教職員の思いでもあります。



ルワンダオンライン国際協力研修

— 目から鱗が落ちる学びと体験 —

国際コミュニケーション学科
教授 伊藤 由紀子

します。交流内容は、本学学生がそれまでの授業で学んだルワンダについて確認したいこと、疑問に思ったことを質問やディスカッション形式に織り込みつつ、カジュアルな交流、トークができるように準備します。本年度は主に教育の分野では、私立と公立の学校の違いについて、女性の活躍については、女性が社会進出しやすい社会の中でなぜシングルマザーが多いのか等についての意見交換が活発に行われました。

2017年度からルワンダ国際協力研修が始まりました。アフリカ大陸の赤道直下にある小さなルワンダでの研修は、本学学生にとって非常に学びの多い研修です。何せ日本は毎年120位くらいをさまよう世界各国の男女格差を測るジェンダーギャップ指数（GGI）で、ルワンダの順位は常に10位以内の女性が活躍しやすい国です。一回目の研修で女性委員会のメンバーの講義を受けた際に「みなさんは卒業後どのような仕事をするのですか」との質問に、学生が「企業に勤めます」と発言すると、彼女は眼を見開き「なんで？ 大学まで卒業できるのになんで起業しないの？」と純粋な疑問を投げかけました。その発想に学生は返す言葉なく…でも、

考えてみたら確かに…と思う学生が少なくありません。こういう目から鱗が落ちる体験ができ、他国を知ると同時に自国、自分の生活の在りようを考えられるのが学習院女子大学の国際協力研修の醍醐味です。3年目の研修が新型コロナウイルス感染症の蔓延で中止になりましたが、海外渡航が困難な日々が続く中、ルワンダ研修は渡航プログラムと同じ内容でオンラインにて実施され、本年度3年目となります。

渡航プログラムの内容とまったく変わらないルワンダオンライン国際協力研修では、小学生、大学生、村に住む人々、未亡人、女性支援NGOの受益者たち等、ごくごく普通のルワンダ人とオンラインで交流

国際協力研修なのに現地に行けなくて残念…。しかし、オンラインだからこそ、様々な理由で海外研修に参加できない、する予定がまったくなかった学生たちが参加し、それまでの学びや経験からは得られなかったまさに「目から鱗が落ちる」体験・見聞ができ、さらなる探求心が芽生えます。リアルアーツ教育を推進する学習院女子大学ならではの体験です。色々な事ができない事態を招いたコロナ蔓延の日々でしたが、ある意味では日本と世界をより近づけたのも事実です。それまで国際文化交流学部なのに「国際交流」ができていなかった学生たちへ国際交流の舞台を提供したのですから。ぜひ、学習院女子大学生に



私立「ウムチョムイーザ学園」の小学6年生に5、10、30年後の夢を書いてもらいました



NPO法人「ルワンダの教育を考える会」マリールイズ氏からの講義

は学科を問わずこの機会を十二分に活用していただきたいと思っています。

このルワンダオンライン研修がきっかけで渡航が伴う海外研修、留学、海外インターン・ボランティア等に参加する学生が出ています。あるいは旅行でアフリカに行ってみようという学生もいます。オンライン研修の学びから、梓にはまらない、自分だけの海外への渡航、自由に色々な出会いがある旅に出ることは、これは実はとても大切です。大学や誰かに準備された環境や枠組みに身を委ねるのではなく、大学生ですから、自分で道を切り拓いてもらいたいのです。もちろん相應の渡航のためのリスク管理・意識をもってです。

国際協力研修という援助、ボランティア活動等をするイメージを持つ学生が少なくありません。しかし、ルワンダ研修は違います。私が担当する研修では、開発途上国だから、アフリカだからといって「負」の部分に焦点を当てたり、初対面から「ボランティア」をする違和感なしに、その国と人々、そしてその社会の豊かさに焦点を当てて貪欲に知る・学ぶと

いうことを大切にしています。なぜなら、私たちがより豊かな日本の社会を築くアイデアや気づきの源泉が彼らの行動や生活様式、考えに多くあるからです。かつては経済発展した先進国日本が開発途上国を経済・技術協力を通して支援するという図式が成り立ちましたが、もはやそうではありません。国連改革の議論がされ続けていますが、日本が本当に安んじているのでしょうか。今やアフリカから常任理事国入りする動きがありますから、どうなるのかまったくわかりません。もし、ルワンダ、あるいはアフリカと聞いて皆さんが、貧困、難民、紛争、援助等のキーワードが頭をよぎったとしたら、ルワンダ研修に参加したら、絶対に「目から鱗が落ちる」発見があります。これから社会に出る若い方々は、世界の中の日本の位置を真摯に見極める目を持ち、行動することが重要です。そしてどのような日本社会を作る役割を果たしたいのか模索し、ぜひ、4年間という大学生活を貴重な学び・成長の場としてください。

2022年度は中欧、ベトナム、ジュネーブ国際協力研修が現地で実施されました。2023年

度はタイ・ラオス国際協力研修が新たに始動、協定校への訪問や学生交流なども計画されています。そしてオンラインでルワンダやラオスと交流したり、フランス、カナダ、韓国とオンライン同時授業も行われます。世界からの協定留学生も戸山のキャンパスに多く戻ってきました。学習院女子大学生一人一人に合わせ、ど

のような国際交流も可能にして2023年度を迎える準備万端です。
ポストコロナとは言え、未だ多くの医療関係者に多くの負担がかかっています。感謝の意を込めると同時に、世界がなんとかバランスを保ち、誰もが安心して暮らせる世界であることを祈ります。



「Nyamirambo Women's Center」の洋裁職の女性たちに、人生で困った、悩んだ時のアドバイスをもらいました



ルワンダの大学生に大学に入学するまでの道のりを聞き、将来について語り合いました

再開された中欧国際協力研修

— オーストリア・クロアチアを訪れて —

国際コミュニケーション学科
教授 中島 崇文

二〇〇七年より毎年、欧州地域に学生たちを連れていっていません。二〇二〇年と二〇二二年はパンデミックのためにやむをえず研修を見送っていましたが、ようやく二〇二二年の夏には再開することができました。感染がまだ収まっていない状況の中、三、四年生のみを受け入れ、また訪問先を大幅に絞って実施しました。学生たちは充実した研修レポートを執筆しています



研修を振り返り、まずは三年ぶりに本研修を無事に終えることができ、本当に感謝の気持ちしかない。十日間という期間に得られた経験は一生の宝と言える思い出であり、一生忘れられない記憶となった。オーストリアとクロアチアという日本から遙か遠くに位置する国々が、この十日間の滞在で筆者にとって身近な存在となり、彼らの文化や生活感を肌で感じ、何より現地の人々の温かさを感じる事ができた。「百聞は一見に如かず」はまさにこの経験が裏付けている通り、現地に足を運ぶことで二カ国はいい意味で

筆者の特別な国へと大きく変わったと思う。その経験をもっと多くの学生に経験してもらいたいと思う。そんな研修であった。

羽田 莉穂賀

今回の研修は、授業において座学で学んできたことや関心を持ってきたことを直接体験することができた貴重な経験であった。その土地の人々との交流や雰囲気を感じることで、より歴史や文化を深く理解することにつながった。また、私にとっては約四年ぶりの海外渡航であり、初めてのヨーロッパであったため、アジア人として認識されることは非常に新鮮であった。ヨーロッパの美しく伝統的な文化は非常に素晴らしいものであり、同時に、日本やアジアの伝統的な文化についても海外に発信できるほど学びたいと考えた。きっかけになった。

中山 玲菜



私は学習院女子大学のパンフレットを見て、中欧研修に興味を持った。例年よりも短く、滞在する国も二カ国と少なかったが、その分オーストリアとクロアチアの空気を深く知ることができたように感じた。また、大学の講義や教科書、本やインターネットの情報だけでは体験することのできない景色を実際に自分の目で見ることで、研修に参加する前と後では価値観が大きく変わったように思える。さらに、日本で生活してあまり感じる事が無かったが、英語という言語の重要性をよく学ぶことができた。最後に、今回の研修は特殊であったが、来年以降の研修はまた元の形に戻る可能性があり、ここに記載したものよりもより多くの国の文化に触れることができると思うため、是非参加することを勧めたい。

小海 初実

大学入学前から関心のあった中、東欧研修に、遂に今年参加することができ、渡航前の期待以上に、見聞を深めて帰ってくる事ができた。荘厳な西洋の建築は、写真で見るとよりも数倍迫力があり、非常に凝った一つの作品のように思われた。街の探索や、シェーンブルン宮殿での見学などを通して、ハプスブルク帝国が衰退してから時間が経ってもなお感じ取ることのできる、権威の偉大さを身をもって実感した。また、旅行



菅野 理子

だけでは訪れることのできないような貴重な場所へ訪れ、生涯忘れられない経験をする事ができた。ウィーンでは国連本部へ見学に行き、世界を先導していく機関としての使命感をうかがい知ることができた。クロアチアでは、在クロアチア日本大使館を訪問し、磯大使から貴重なお話を伺うことができ、日本の世界における立ち位置を考える必要があることを再認識した。さらに、二〇二〇年に起きた震災の被災地へ訪れ、今もなお復興の目途が立たず仮設住宅で暮らす人々が、早く家に戻りたいと言っていたことが心に深く残った。また、ウィーンで見たウクライナ侵攻に対する反対デモを目の当たりにし、紛争や戦争を反対するという、自分の中に在る意思を再確認した。世界における、被爆地としての日本、そして被災地としての日本の立ち位置を再認識し、今後も考えを深めていきたい。

訪問したオーストリア、クロアチアでは、人々が日本語で声をかけてくれるなど現地の人々の温かい対応が印象的であった。このように実際に街の雰囲気を感じたり、現地の人との交流はその地を訪問したりすることで得られる経験であると考えている。これらの貴重な体験をすることができたのも、中島先生、木村先生をはじめとする関係者の方々のお力添えがあったからであり、大変感謝している。本研修で学んだことを今後の勉強や国際交流の場で生かしていきたいと考える。

落合 結衣

この研修に参加して、授業で学んだことを現地で再確認しながら学び直せたことが大きな宝となった。ウィーンとクロアチアに滞在中も「おはようございます」と声をかけてくださる人が多かったことが嬉しかった。遠く離れた国でも日本が愛されているのだと実感した。また、日本においても世界のことは学べるが、現地でしか理解できないこともあるのだと日々実感していた。言語や文化が違う人々でもお互いに思いやる気持ちを持ち、親しむことができると、特にクロアチアの人々は明るく、「ノールール」と言っている人もいたことが印象的である。私は典型的な

日本人であるため、少しはクロアチア人のメンタリティーを取り入れてみるとさらに人生が豊かなものになるのではないかと感じた。

武藤 杏香

これまで地域研究基礎論やその他の中・東欧に関する授業の中で学んだ地域の歴史や文化を、実際に自分自身の感覚で触れることができ、大変意義のある研修となった。そして、ウィーン国際センターや在クロアチア日本大使館など普段訪れることのできない場所を訪問し、新たな知識を身につけたことで、確実に自身の視野が広がったことを実感している。思い出は多くあるが、中でもセルビアとの戦争を経験した万寿美シテグリッチさんのお話が最も印象的で、帰国後、現在起きているロシアによるウクライナ侵攻について考える際にも、彼女の経験を知る前と知った後では、受け止め方や考え方が大きく変わっている

ことに気がついた。この研修を通じて経験したこと、学んだことを今後の学びに活かし、自身の経験に



今回の研修は様々なリスクを考慮した上で行われたが、研修中もスリなどに遭うことなく、無事帰国することもでき一安心した。やはり研修前は親に相談し、ウクライナ戦争やコロナを心配していたが、母も大学在学時にヨーロッパへ研修に行ったことがあり、同じような経験を味わせてあげたいという思いから、送り出してくれた。研修では、異国の地

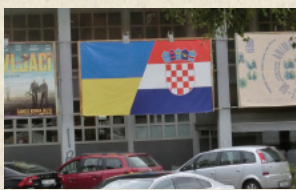
基づく知識としてアウトプットすることが現在の目標である。

阿部 七夏

今回の研修を通して、異なる文化や生活に触れるだけでなく、彼らのアイデンティティや国際問題等より深いところまで踏み込んで学ぶことができたと感じている。また、大学の講義だけではわからない現地の雰囲気や自身の目で見ることで自らの視野を広げることができた。今回訪れたのはオーストリアとクロアチアの二か国であるが、東欧について一層興味が高まったため、機会があれば他の国も訪れたい。特に今回、クロアチア人の旧ユーゴスラヴィア諸国に対する思いや確執があることを実感したため、セルビア等、敵国だった国からのクロアチアへの印象についても興味を持った。

三上 真菜

まず、コロナ禍という厳しい状況の中、研修の実現にご尽力くださった中島先生をはじめとして、引率を引き受けてくださった木村先生、JTBの皆様方、大学の関係者の方々、研修参加に対して背中を押してくれた両親に大きな感謝を伝えたい。自分の周りで動いてくださった数多くの大人のおかげで、十日間という貴重な経験を私にすることができた。コロナ感染症により研修の実施と



参加を数年見送り、研修に参加できずに卒業を迎えるのだろうと諦め、その事実を受け入れかけていたので、今でも現地へ行ったことが夢みたいである。

濱田 紀美

二カ国を訪れる中で、各々の国の良さや違いを実際に肌で感じ、机上学習では得られない雰囲気や存在に感じることができた。さらに、海外に行つて気づく日本の良さや弱点にも再度目を向ける機会となったと思う。日本から遠く離れた二カ国に、日本に関心を強く抱く方々が多くいること、また、その中でも日本語を習得したい、日本へ行きたいと日本の勉強に力を入れる方々も多くいることを知った。私たち日本人は、自分たちの国である日本のことをより一層知ろうとする意欲的な姿勢やその学んだ知識や考えを世界に発信しようとする姿勢が求められているのだらうと痛感した。研修後も、自国への理解を深め説明ができるような力をつけることと国外への興味関心を高め、熱心に勉学に励んでいきたい。

加えて、研修メンバーである十名の学生や大使館訪問でお会いし、八日目の日程と一緒に行動してくださった本学の卒業生である井澤希専門調査員との関係を今後も深めていきたい。

安井 彩乃

日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
大豆の栄養-味噌づくりから学ぶ発酵食品	棚野 典子	台東区台東保健所会計年度職員 管理栄養士	R4年6月4日	2限	日本文化演習I・IIIK	宇都宮 由佳
三内丸山遺跡の縄文ポシェットを復元する	高宮 紀子	バスケットリー作家	R4年6月9日	2限	歴史資料論II(考古)	工藤 雄一郎
イスラム女性と近代スポーツ ~ヴェールの世界のスポーツ文化	荒井 啓子	学習院女子大学名誉教授	R4年6月20日	3限	現代文化論VII (スポーツ文化論)	橋本 彩
芥川龍之介の食と嗜好	木口 直子	田端文士村記念館学芸員	R4年7月12日	5限	日本文化演習I・IIIH	土屋 有里子
実証研究のための心理統計	山田 剛史	横浜市立大学 都市社会文化研究科教授	R4年7月20日	3限	日本文化演習I・IIIR	澤田 匡人
心理学研究とは何か:地域との協働を通じて 見えてきたこと	大久保 智生	香川大学教育学部准教授	R4年10月28日	4限	日本文化基礎演習II・IVQ	澤田 匡人
食品添加物の役割とその安全性	川岸 昇一	一般社団法人日本食品添加物 協会常務理事	R4年11月17日	2限	現代生活論I (現代食品情報)	宇都宮 由佳
日本における障害者と家について	木下 知威	日本社会事業大学非常勤講師	R4年11月30日	3限	日本人論II	木村 直恵
琉球舞踊の伝承者に聞く 沖縄の芸能と伝承の心	志田 真木	琉球舞踊重謡流二世宗家	R5年1月13日	1限	伝統文化論V(舞踊)	森田 ゆい
文化庁における文化観光政策について	丸岡 直樹	文化庁参事官(文化観光担当) 文化観光推進コーディネーター	R5年1月19日	4限	日本文化政策論II	土屋 正臣

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本の外交の現在	今西 淳	東北大学公共政策大学院教授	R4年5月18日	5限	国際コミュニケーション演習 HI/III	武井 彩佳
コレラの19世紀:細菌学以前の疫病	村上 宏昭	筑波大学助教	R4年6月8日	2限	ドイツ文化論I	武井 彩佳
ラオスでの図書普及活動	赤井 朱子	NPO法人ラオスのこども	R4年6月28日	2限	国際開発論I	伊藤 由紀子
近世ヨーロッパ文化と秘密友愛団の成立 -フリーメイソン団の起源をめぐって	深沢 克己	日本学士院会員・ 東京大学名誉教授	R4年6月29日	5限	ヨーロッパ文化論	正本 忍
ワイン文化から読み解くフランス史	野村 啓介	二松学舎大学教授	R4年7月5日	5限	フランス文化論I	正本 忍
新しい農業の形を考える: 農福連携と農泊の可能性	皆川 芳嗣	農林中金総合研究所 理事長	R4年7月12日	5限	国際コミュニケーション演習 IG・IIIG	荘林 幹太郎
宇宙開発の歴史と未来 (日米関係を中心として)	山口 達也	立命館大学講師 兼 客員協力研究員	R4年7月16日	1限	国際関係論III(日米関係)	齋藤 洋子
異文化で働く	ボリス・ ベルトラン	サン・バルトロ・シュルトゥン広域 考古学プロジェクト ディレクター	R4年8月31日	1限	☆中南米文化論	川本 直美
「木材」産業から見る東アジア経済交流	李 京鎬	東京大学大学院農学生命科学 研究科研究員	R4年10月11日	5限	国際コミュニケーション演習 IIK・IVK	羅 京洙
ショートショート(微型小説)の代表的作家 - 凌鼎年	フランソワ・ グシュエンド	ジュネーヴ大学文学部東アジア 研究学科中国学専攻助教	R4年10月12日	4限	国際コミュニケーション基礎 演習III・IVI	金野 純
世界で出会ったアメリカ	嘉治 美佐子	国際人事委員会委員	R4年10月17日	3限	国際コミュニケーション演習 IIB・IVB	佐久間 みかよ
21世紀に求められる人物像・社会像	久能 祐子	S&Rエバーメイ財団理事長、 ハルシオン創業者兼名誉議長、 京都大学理事他	R4年10月21日	1限	経営学I	金城 亜紀
日本から世界に伝えたい文化・料理・装い	山田 萌		R4年11月12日	2限	外国語演習IIG	高橋 弘行
ブルターニュ地方とケルト文化	原 聖	女子美術大学名誉教授	R4年11月22日	5限	フランス文化論II	正本 忍
タンザニアの歴史・文化・自然	金山 麻美		R4年12月15日	4限	アフリカ文化論	津山 直子
日本の外交活動における公邸料理人の 制度と現状	中村 あゆみ	一般社団法人国際交流 サービス協会(IHCSA)職員	R4年12月21日	4限	国際コミュニケーション演習 IID・IVD	中島 崇文
女性と文学	藤野 可織	小説家、京都精華大学・同志社 女子大学非常勤講師	R4年12月21日	4限	国際コミュニケーション演習 IIL・IVL	澤田 知香子
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済 研究所について	新谷 春乃	日本貿易振興機構アジア経済研 究所研究員	R5年1月11日	3限	国際コミュニケーション演習 IIF・IVF	北川 香子
イギリスの文学と文化について	清水 英之	学習院女子大学非常勤講師	R5年1月11日	4限	国際コミュニケーション基礎 演習IIO・IVO	古庄 信
①カンボジアの司法について ②日本におけるカンボジア人の状況について	クム カエマリー	名古屋大学法政国際教育協力 研究センター研究協力員	R5年1月13日	2限	東南アジア文化論II	北川 香子

日本文化学科、国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
靴のチカラで健体康心 〜いつか母になるあなたのために	浅利 妙峰	有限会社靴屋本店代表取締役	R4年 9月11日	4限	日本文化演習II・IVN 国際コミュニケーション演習 II・IVU	品川 明
諸種日本酒の味わいの違い	遊佐 勇人	人気酒造株式会社蔵元	R4年 10月14日	4限	日本文化演習II・IVN 国際コミュニケーション演習 II・IVU	品川 明
ワインの特徴と歴史	原口 真一	前日光市立足尾中学校校長	R4年 11月11日	3限	比較文化論VI(嗜好)	品川 明

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
ブランコの来た道	寒川 恒夫	静岡産業大学経営学部特任教授	R4年 6月9日	2限	社会環境論IV「遊びと祝祭」	橋本 彩
ヨガの世界観(生き方としてのヨガ)	島村 朋子	tada.ima Yoga House 主宰 ヨガ講師	R4年 6月21日	2限	スポーツ・健康科学演習IA 「東洋の養生法 (ヨガと呼吸法)」	橋本 彩
ブルガリアの伝統的な保存食ーリュテニツァ	ヨトヴァ・マリア	立命館大学食マネジメント学部 准教授	R4年 7月6日	2限	生活文化演習III (食品製造)	宇都宮 由佳
懐石にみる日本の心と味	中澤 宗寿	表千家茶道教授	R4年 11月11日	3限	生活文化演習II (味わい教育)	品川 明
インクルーシブスポーツ:ゴールボール体験	高田 朋枝	元ゴールボール日本代表選手	R4年 11月24日	2限	スポーツ・健康科学演習IIA (民族スポーツとニュース スポーツ)	橋本 彩
禅の食事作法	篠崎 英治	龍潭山善實寺(曹洞宗) 広報主任・福悦 地藏院副住職	R4年 11月25日	3限	生活文化演習II (味わい教育)	品川 明
現在の日本人でフランス革命を学ぶ意味	山崎 耕一	元一橋大学教授	R4年 12月7日	5限	西洋近代史概論	正本 忍

学芸員課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
私の制作する日本画の画題内容について	須惠 朋子	画家、 子供造形教室代表	R4年 10月15日	11時~14時	博物館実習IIB	小勝 禮子
「心ゆさぶる美術館」へー ポーラ美術館の活動の現在	岩崎 余帆子	公益財団法人 ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館学芸課長	R4年 11月19日	15時30分 ~17時	博物館実習IIA	清水 敏男

司書課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
不動産業界におけるDX(デジタルトランス フォーメーション)の現状と今後の展望	武井 紀久	ココレア株式会社代表取締役	R5年 1月16日	2限	図書館基礎特論	江藤 正己

教職課程について

日本文化学科 准教授 澤田 匡人



学習院女子大学には、2018年度より教職課程が設けられました。所定の単位を修得することで、日本文化学科では国語、国際コミュニケーション学科と英語コミュニケーション学科では英語の一種免許状(中学校及び高等学校)が取得できます。いわゆる教職科目と呼ばれる「教職課程に関する科目」は、「教科及び教科の指導法」「教育の基礎的理解」などのカテゴリから構成されており、38単位となります。これに加えて、国語もしくは英語の「教科に関する専門的事項」に該当する24単位以上、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」(日本国憲法、情報リテラシーなど)に該当する8単位以上が必要です。このように、数多くの単位修得が求められる教職課程の履修は、決して容易な道ではありません。

ここでは、私が担当している教職科目の中から、教育心理学と教育相談をご紹介します。教育心理学は、発達と学習の過程を学ぶことで、生徒を理解する力の涵養を目的としています。「思考」や

「性格」の発達を通じて、どのように子どもから大人へと変わっていくのかを知り、「条件づけ」や「動機づけ」の原理から、環境の変化による行動の変容について理解を深めます。なお、この科目は、教職課程を正式に履修する要件の一つとなっていますが、教職を志すか否かに拘わらず、全ての学生に開かれています。

一方、教育相談は、教職課程履修者に限り履修できる科目で、教育上の問題を助言する際に求められる基本的な知識や技術の修得を目指します。「いじめといじりの境界線」「発達障害の種類と歴史」など、今日の学校現場が抱える種々の問題を取り上げ、グループによる発表や討議も交えながら主体的に学んでいきます。

2022年3月、本学の教職課程から栄えある1期生が巣立ちました。その中には教員採用試験を見事に突破した者も数名おり、既に教壇に立っていたり、教職大学院に進んだりしています。これからも、教職課程を通じて多方面で活躍できる人材を育てていきたいと考えております。



私は学習院女子大学での教職課程により、国語科の教育職員免許状を取得後、現在、他大学の教職大学院へと進学し、教育者としての学びを深める毎日です。

令和6年度より公立中学校の教員となる予定の私ではありませんが、入学当初は教職を志望してはいませんでした。教職課程で授業を受けるうちに、これまで当たり前に受けてきた教育や学校という存在に興味を抱くようになり、また、教職課程の授業の1つである教育心理学の面白さにひかれ、教職が自然と将来の職業選択の1つとなっていきました。

大学3年生からは、教育心理学の担当教員であった澤田匡人先生のゼミに入り、心理学に関する知識や理解を深めることができました。卒業論文では、小学校時代の出来事から「高校生のキャラ」をテーマとし、全国的女子高校生を対象としたオンライン調査を通じて、納得のいく研究をすることができました。現在は、心理学ゼミでの経験と教職課程より得た専門知識を糧に、「中学生のアイデンティティ」についての研究を進めています。

私は、学習院女子大学で教員免許状を得て良かったと改めて感じています。学習院女子大学は1つの学部にも多様な学問分野の先生がいるため、幅広い学びを得ることができ、その環境下で教職課程を履修することができました。また、他学科の友だちと教職課程内で関わる場面も多く、様々な考えや新しい視点を得ることができ、授業内で感化されることが多々ありました。このような経験のおかげで、「引き出しの多い教員」に近づけていけるように実感できています。

これからの大学院生としても、中学校の教員になった際にも、学習院女子大学での多様な学びと広い視野、教職課程によって得た専門性を生かし続けていきます。

2022年 日本文化学科卒業 後藤 萌歌

令和3年度教員免許状 取得状況

令和4年3月31日現在

種類	教科	外国語		合計
		国語	英語	
中学校教諭一種		7	11	18
高等学校教諭一種		7	11	18
合計		14	22	36

注) 18名が中・高の一種免許状を取得したため、免許状取得数は延べ36件となった。

国際学研究所(GIIS)だより

国際学研究所長 国際コミュニケーション学科

教授 金野 純

当研究所は、本学の学部・大学院の教育理念の達成を図るために設けられた付属教育研究機関です。二〇二三年四月に組織されて後、十年が経とうとしています。研究および活動分野は(1)国際文化交流、(2)国際問題、(3)比較文化、(4)アジア・太平洋研究、(5)外国における日本研究支援です。

当研究所は海外の研究機関との研究交流協定の締結を積極的におこなうと同時に、国際シンポジウム・研究集会、講演会・セミナー・展示等を開催し、多くの研究所叢書や英文ジャーナルを刊行することによって、学生や社会に開かれた研究の発信をおこなってきました。

昨今の新型コロナウイルス感染症は、本学のみならず多くの大学の研究交流に悪影響を及ぼしています。そうした中、当研究所は非常に活発な研究活動を展開して来ました。その中で最も大きなものが、国際フォーラム「21世紀アジア太平洋時代の日米関係」

です。これは三月一六日に行われているため、正確には昨年度の催しではありませんが、昨年度の『やわらぎ』では発行日の関係で紹介できませんでしたので、この場を借りて内容を簡単に紹介したいと思います。

当フォーラムでは日米の政策決定に関与する著名な実務者と研究者がアジア全体の政治力学を視野に入れながら日米関係を考察し、二一世紀のアジア太平洋における日米関係の行方について活発な議論を交わしました。外務省の後援を得て、開会に際しては駐米特命全権大使の富田浩司氏がビデオメッセージを寄せてくださり、基調講演には佐々江賢一郎氏(日本国際問題研究所理事長)にお越しいただきました。さらに海外からはJon Janne氏(戦略国際問題研究所所長)、Lawrence Wilkerson氏(ウィリアム&メリー大学教授)、Lincoln Bloomfield氏(ステイムソン・センター名誉会長)、Marc Krappert氏(駐ベトナム米国大使)らがオンラインで講演し、会場となった本学のやわらぎホール

では、高橋弘行氏(NHK)がモデレータを務めるなか、川島真氏(東京大学教授)、イム・ジェファン氏(青山学院大学教授)、飯塚恵子氏(読売新聞社論説委員兼編集委員)らが、会場で活発な議論を展開しました。オンラインで参加した海外からの参加者も加えて行われたディスカッションではウクライナ問題なども含めて多くの聴講者に関心を寄せるテーマについても深い議論がなされました。

こうした大規模なフォーラム以外にも当研究所研究員の四方八重戸氏を講師とする「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」開発途上国の現状と新型コロナウイルスの影響」のようなセミナーや、ジュネーブ大学からアジア研究者を招いたフォーラム「ヨーロッパにおける

日本研究の最前線」を開催しました。今後、海外とのスムーズな人的交流が可能になっていく流れの中で、より積極的かつレベルの高い研究活動を展開し、本学の研究を活性化して行きたいと考えています。



伝統行事か?スポーツか?の狭間でゆれる ラオスの競漕祭

日本文化学科 准教授 橋本 彩



私が専門とするスポーツ人類学では、昨年話題になったFIFAワールドカップのような国際的なスポーツよりも、世界各地に古くから伝わる運動文化を主な研究対象としています。国際スポーツは、参加者が帰属する独自の文化や宗教、言葉を超えて競技者が共有しうるルールを土台に行われるものですが、地域独自の運動文化では、外部の人がすぐには理解し難い慣習をルールに含み、宗教的儀礼を付随させながら行なっている場合が多くあります。私はそうした地域独自の運動文化を通して、文化や宗教、人々の考え方を理解したいと思ひ、東南アジア大陸部に位置するラオスの競漕祭を研究対象としてきました。

ラオスにおける競漕祭は、一説によれば450年以上の歴史を持つとされる年中行事で、雨季が明ける10月頃にメコン川で開催され

ます。競漕は、一本の長い木をくり抜いた丸木舟に50人ほどが乗って上流から下流へと漕ぎ下る形で行われ、その速さを競い合います。ラオスの首都ヴィエンチャンでは、2000年頃より舟の構造差による競漕の不等等を訴える声が上がリ、競漕祭の「伝統」とは何かを改めて問われるようになりました。その際、「伝統」に對峙する言葉として語られたのが「スポーツ」

でした。研究者の立場からすれば、スポーツという言葉は、必ずしも西洋発祥のスポーツ種目やその特徴を限定的に指すものではありません。スポーツの語源 *agone* が意味する「気晴らしをする、楽しむ」といった要素を含む活動全般をスポーツと捉えていますので、「公平性や勝敗を重視した競争」という限定的な見方をしていません。しかしながら、現地においては「スポーツ」は勝利を重視しすぎて伝統を阻害するもの、という文脈で語られており、敵視されている感さえありました。

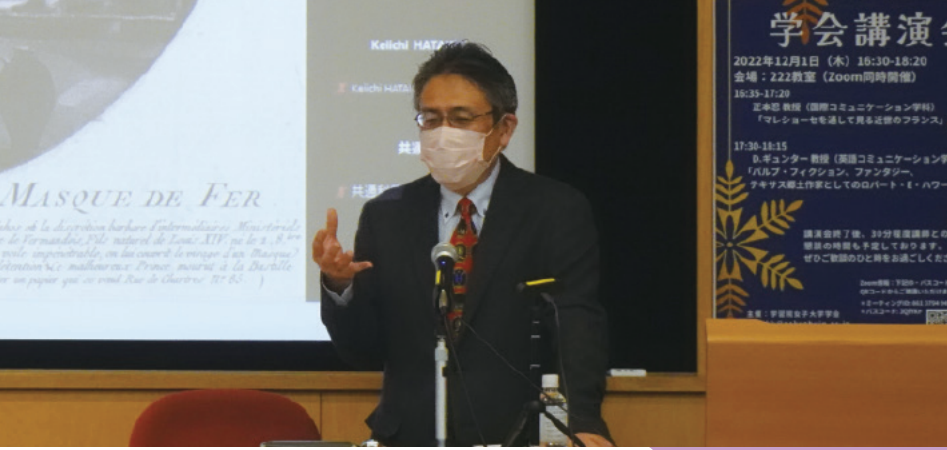
一方、伝統が一般的により古い形状のことを指すのだとすれば、彼らの議論には矛盾も見られました。かつては舟の大きさ・形状関係なく、好きに競漕して楽しんでおり、厳密な公平性も勝利もさして問題ではなかったと語るのです。むしろそこが研究者視点から



見た「スポーツ」なのですが、伝統を阻害するものが「スポーツ」と語る参加者たちが議論を通して訴えていたものは、競漕の公平性、すなわち勝てる可能性、確率の担保であり、それは勝利を希求する現在の限定的なスポーツの特徴に彼らが多分に取り込まれていることを示すものでもありました。事象は時代に応じて常に変化するのは自明の理であり、変わらない伝統はありません。むしろ変化が伝統を伝統たらしめるのだと感じます。

私の研究は「伝統」に関わるものが多いので、「スポーツ」という言葉が弊害を生むこともあるのですが、その難しさを含めてスポーツの世界を学生の皆さんに伝えていきたいと思っています。





マレシヨールセを通して見る 近世のフランス

国際コミュニケーション学科

教授 正本忍

本講演では、研究者としての私の来し方、現在の研究テーマ、その内容についてお話しさせていただきます。

私の専門はフランス近世史、社会史です。主に16〜18世紀のフランス絶対王政の統治構造を研究しています。研究の主たる目的は、国家権力がどのように臣民・国民を統治しようとし、統治される臣民・国民がそれに対してどのように対応(抵抗)したかを検討することです。絶対王政期は国家の統治システムが飛躍的に整備される時期ですが、国家による抑圧と民衆による抵抗がより鮮明に現れると考えたのです。

学部や大学院ではルイ14世親政期のバステューを研究してい

ました。バステューはフランス革命勃発時にパリの民衆に襲撃された監獄として知られていますが、国王権力が絶頂に達したとされる時期にどのような人たちがなぜ投獄されたのかに関心があったのです。でも、想定していたほど「政治犯」は投獄されておらず、ちよつと「困りました」。

1992年、パリ第4(ソルボンヌ)大学への留学を機に、新たな研究テーマ、マレシヨールセに取り組み始めました。マレシヨールセは、絶対王政期の国王の裁判所であり、騎馬警察隊であり、国王軍の一部隊でもあるという、多機能で極めて「近世的な」組織でした。そのような組織の研究

は広い射程を持っていて、裁判、治安、地方統治、官僚制、軍隊、

農村社会、マルジノー(周縁の人々)など様々な角度からアンシアン・レジームの国家と社会を照射できます。

実は、マレシヨールセは現在にも直接、繋がっている制度です。現代フランスの警察制度は大きく二本立てになっていて、都市を管轄するのが国家警察、都市の外を管轄するのが国家憲兵隊です。この体制は17世紀の半ばから1720年にかけて形作られ、フランス革命を経て、その大枠を保ったまま現在に続いています。その国家憲兵隊の前身がマレシヨールセなのです。

主な研究フィールドはフランス北西部のノルマンディ地方、時期は18世紀前半です。当時の手書きの資料(史料)をバリエーションの古文書館に行き探して出し、デジタルカメラで撮って(15年ほど前までは筆写かコピーでした)、日本で読んでいます。

講演では当時の文書を通して見た近世フランスの姿をもう少しお話したかったのですが、私の時間配分のまずさで十分にはお話できませんでした。今後は講義や論文等の形でお伝えできればと考えています。





パルプ・フィクション、ファンタジー、 テキサス郷土作家としてのロバート・E・ハワード

英語コミュニケーション学科
教授 ギンター デイル クレメンズ

アメリカのパルプ・フィクション作家ロバート・E・ハワード(1906-1936)は、ポップカルチャーの象徴である「英雄コナン」の作者として主に知られています。

このキャラクターの成功のせいで、残念ながらハワードの他の作品の大半はほとんど世に知られていません。また、ハワードの原案とは全く違った、映画やコミックの間違った描写や、ハワードの物語の大幅な編集版の出版も相まって、ハワードは文学的価値のない暴力的冒険小説の安っぽい作家に過ぎないとみなされる結果となっていました。

このような理由で、実はロバート・E・ハワードが、テキサスの歴史や文化、精神性を作品に取り入

れた、地方色豊かな作家であったことは、未だ広く知られていません。彼は、石油ブームが20世紀初頭のテキサスの生活や伝統に与えた打撃を、しばしば物語の中で批判しています。

また、ハワードが幻想文学や大衆文化、現代の様々なエンターテインメントに多大な影響を与えたことも広く知られている事実です。

本発表では、まずハワードの伝記を紹介します。そして、20世紀初頭のアメリカのパルプ・フィクション市場を説明し、ハワードのパルプ・フィクション作家としての生涯を紹介します。続いて、ハワードの作品がテキサスの歴史からどのような影響を受け、それをどのように物語に取り込んでいったかを紹介します。そして、20世紀がテ

キサスの田舎町にもたらした変化に対するハワードの批評に焦点を当てます。

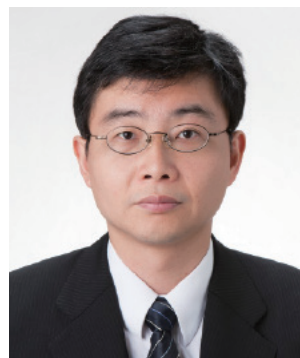
最後に、ハワードの最も有名な作品であるコナン・オブ・キンメリア(英雄コナン)が、ハワードにとって、単なるパルプ・フィクションではなく、20世紀初頭のテキサスの変化に対する批判を表現する手段であったことを明らかにします。



新任専任教員紹介

国際コミュニケーション学科 准教授

櫻井 宏明



略歴

一橋大学経済学部卒業後、旧経済企画庁(現内閣府)に入庁し、各種経済調査業務に従事。人事院長期在外派遣制度にてアメリカ留学(オハイオ州立大学にて経済学修士)、外務省国際協力局にてODA業務、在タイ日本大使館にてタイ経済調査業務にも従事。その後一橋大学にて経済学の博士号を取得し、2022年4月から現職。研究関係では日本タイ学会監事、消費者庁の客員主任研究員、教育関係では慶應義塾大学非常勤講師等を兼職。著書に「Effects of Foreign Aid: Evidence from Thailand」Springer(単著)。

私の研究

私の専門分野は国際経済学、公共経済学になります。この分野に関心を有するきっかけは、バブル華やかかなりし高校時代に経済格差とその対策に関心を抱いたことでした。希望があった大学入学後には国際経済学の石川城太先生(現学習院大学国際社会科学部教授)、財政学の故石弘光先生(元一橋大学長)に師事することができました。就職した旧経済企画庁は経済白書

等が有名ですが、現業部門では政府開発援助(ODA)業務と消費者行政業務を抱えており、この2つが現在の研究テーマとなっています。

ODA業務は省庁再編にて外務省に移管されましたが、外務本省で企画側、タイ大使館で実施側の両面を経験しました。ODAの効果は当時国会でも疑問視されたところでしたが、現場にいた感覚では現地の経済活性化に大変重要な役割を果たすものでした。実際に学問的にもその有効性は両論あるため、博士論文指導教官でもあり学部ゼミの先輩でもある佐藤主光先生(一橋大学教授)から薦めていただいたものです。タイ駐在時代に得たデータからODAはその後のタイ経済の発展に貢献していることを提唱した博士論文をとりまとめ、著書となっています。

もう一つのテーマである消費者行政は主に食品政策の効果の研究をしています。こちらは大学赴任当初に担当したゼミ生の「ダイエットについて卒業論文を書きたい」という一言から始まりました。アメリカでは「Obesity」と呼ばれる学際的学問分野になっており、その対策も加糖飲料に課税する「砂糖税」や食品の栄養バランスを信号のように表示する「食品表示システム(FU)ではNutri-score」などの政策が実施されています。

ここまで研究内容とその背景を述べましたが、学部4年間で何を考えて何を行い、誰と一緒に過ごすか、はその後の人生に大きな影響を与えます。2023年度からは授業に加えタイ・ラオスへの短期研修も始めるなど、これまでの経験や研究成果を伝える機会を増やしてまいります。学生には様々な機会を活用して先行き不透明な時代を力強く生き抜く力を養ってほしいと考えています。

令和4年度 客員研究員受入一覧

氏名	所属	受入部署	研究テーマ	共同研究者	受入開始	受入終了
1 青木 淳子	本学非常勤講師	国際学研究所	日本の皇室とイギリス王室の服飾様式の比較	今橋 理子	4月1日	3月31日
2 阿曾村 智子	本学国際学研究所客員研究員	国際学研究所	平和構築における文化的要素の課題と展望	島山 圭一 中島 崇文	4月1日	3月31日
3 宇野 公子	本学国際コミュニケーション学科 客員研究員	国際コミュニケーション学科	企業の異質性を考慮したグローバル・バリューチェーン分析-米中貿易摩擦の多面的評価	島山 圭一	4月1日	3月31日
4 門間 卓也	関西学院大学文学部研究員	国際学研究所	社会主義ユーゴスラヴィアにおけるジェンダー政治	中島 崇文	4月1日	3月31日
5 四方 八重戸	本学国際学研究所客員研究員	国際学研究所	With/Post COVID-19社会におけるジェンダー平等の実現をめぐる国際動向-各国の課題と取り組みを中心に-	島山 圭一	4月1日	3月31日
6 マーシャスポーレ	スイス国立科学財団特別研究員(ジュネーブ州立ジュネーブ大学文学部東アジア研究学科日本学専攻)	国際学研究所	折口信夫(釈道空)における「写生」論およびその実践	中島 崇文	6月1日	8月15日
7 小幡谷 友二	ジュネーブ州立ジュネーブ大学文学部東アジア研究学科日本学専攻 専任講師	国際学研究所	海外における漢字教育-「標準」・「許容」類型の活用-	中島 崇文	6月8日	6月20日
8 関原 成妙	十文字学園女子大学人間生活学部健康栄養学科 助手	環境教育センター	日本における日本原産野菜を用いた伝統的な家庭料理の特徴	品川 明	7月29日	3月31日
9 ギデオフジワラ	レスブリッジ大学 助教	国際学研究所	A History of the Imperial New Year Poetry Ceremony (utakai hajime) from Premodern to Contemporary Japan (「御歌会始の歴史について-江戸後期から近現代にかけて」)	金城 亜紀	8月1日	12月31日
10 アントワーン・フォン＝デーブル＝ヴァイド	ジュネーブ大学文学部東アジア研究学科日本学専攻 助教	国際学研究所	傷痍軍人に関する研究	中島 崇文	1月7日	1月23日



国際コミュニケーション学科
4年（マレーシア出身）
陳 屏瑞

日本に来てから、なぜ日本に来ることを選んだのですか？日本の魅力とは何ですか？とよく訊かれます。私が日本を選んだのは、29年前に父が東京で働いていたこと、日本が便利で平和で安全であることが影響しています。

2016年末に高校卒業後、台湾のある大学から入学許可をもらいました。両親は留学に賛成していましたが、最終的に、私が選んだのは日本への留学でした。初めて日本に来た時の感動や、留学生生活を期待と不安の中で始めたことを今でもよく覚えていますが、最初はすべてがとても奇妙に思いましたが、未知の場所で新しい言語をゼロから学び、新しい人に会い、新しい場所を探検することで、日本で生活する方法を学んでいきました。その後、日本語学校の先生から学習院女子大学への進学を勧められて、国際コミュニケーション学科に入学しました。

大学は人生の新たな出発点であり、人が生まれ変わる場所だと思います。特に2年次は、過去と未来をつなぐ重要な時期であり、将来の方向性を定め、就職か大学院



受験かを選択する必要がありますが、そのような時期に新型コロナウイルスが出現したため、2年次の1年間と3年次の春学期をマレーシアで過ごすことになりました。幸いなことにその後、私は日本に戻って大学生活を続けることができました。

この数年、私は日本で多くの貴重な経験を積み、さまざまな国の友人を作ることができました。故郷を遠く離れたのは初めてだったので、台湾の大学の入学資格を捨ててゼロからの日本留学を決意したことを後悔した時期もありましたが、その過程で得たものも多く、今まで挑戦したことのないこともたくさん経験しました。

「青春とは、成功しようと失敗しよう、何を選んでも後悔しないことだ」という言葉を読んだことがあります。この4年間の大学生活を通して、私はより強く、より自信を持ち、楽観的で、前向きで、自立した新世代の女性になりました！卒業後は、目標をしっかりと持ち、将来の計画を立てます。

最後に、M. ジョーダン出演映画の曲名から、「I believe I can fly」



国際コミュニケーション学科
4年（香港出身）
袁 嘉棋

私は中高時代からアニメ、日本の文化に感銘を受け、日本語で真のコミュニケーションに辿り着きたいと思いながら、高校卒業後自分の限界を突破し、より広い視野を持つために日本に留学することにしました。そして、学習院女子大学国際コミュニケーション学科に入学しました。入学当初、アカデミックな日本語に追いつくために、かなり工夫をしましたが、周りの優しい日本人の学友やラーニングサポートルームのアドバイザーの指導のおかげで、日常生活用の日本語からレポート・論文用の日本語まで、たくさん勉強することができました。

この4年間、私の日本語力、学問に対する追求を大幅に昇華させることだけでなく、生涯かけがえのない先生、友人、職員たちとの縁に恵まれました。学校という場所にながら、国際化している女子大ならではの充実した経験をし、様々な国籍、背景をもつ学友と交流することで、常に多様な価値観に刺激され、異文化に対する共感力、包容力を磨くことができました。その経験はこれからの人生を導く光



となり、役に立つことと信じています。特に国際交流推進センターがスピーチコンテスト、バス旅行、様々な日本文化体験会などを催したことによって、異国にいて心細く感じている留学生たちが日本人や他の留学生と交流することができました。ここでセンターの職員たちに謝意を表します。

4年間の大学生活、あっという間に卒業の季節まであと2ヶ月、信じられないほど時間が経つのが早かったです。コロナ禍で一年半ほど上手く学生生活を満喫することができないという残念なところがありました。しかし、突如の状態下でも色々なツールを使って、学生になるべく本来の形に近い学生生活を送らせてくれた教職員の方々に感謝します。

学女で出会った人、体験したことは一生忘れられない、かけがえのない思い出になります。それは今年の4月から日本で就職し、新社会人になる私にとって糧になり、どんな困難があっても前に進む原動力になると信じています。

2022

国際交流推進センター

行事報告

4月

- 12日 おしゃべりミーティング with Global People部
- 20日 TOEFL説明会
- 25日 IELTS説明会
- 28日 協定留学説明会
- 30日 留学生とつながろう!

3月に来日した協定留学生との交流会をZoomで開催しました。春学期のスタートにたくさんの学生とつながることができました。



国立劇場で、歌舞伎の見かたについての説明を受け、「彦山権現 誓助剣」を鑑賞しました。

協定校への留学を目指す学生向けに、春学期と秋学期にそれぞれ協定留学説明会と、留学から帰国した学生に直接質問ができる座談会を開催しています。

- 19日 TOEFL ITPテスト学内受験
- 26日 留学経験者との座談会
- 27日 おしゃべりミーティングwith Global People部
- 31日 留学生の話を知ろう!(エストニア、ドイツ)

5月



本学で学ぶ協定留学生や私費留学生が自分の母国や所属大学を紹介する会を、定期的に開催しています。今年度は、春学期は対面・Zoomのハイブリッド、秋学期は対面で実施しました。

春学期で卒業または留学期間を終えて帰国する留学生の送別会です。七夕をテーマに実施しました。



- 4日 (霞会館助成) 歌舞伎鑑賞教室
- 8日 夏期短期語学プログラム ガイダンス
- 9日 留学生とつながろう! 第2弾(Welcome Party)
- 23日 留学生の話を知ろう!(チェコ、ドイツ)
- 26日 留学生ゆかた講習会

6月



- 21日 協定・ダブルディグリー留学説明会
- 26日 TOEFL説明会
- 27日 IELTS説明会
- 29日 協定留学生歓迎会(Welcome Party)

9月



学習院大学卒業生よりご招待いただき、両国国技館で「琴奨菊引退相撲」を観覧しました。

- 1日 琴奨菊引退 秀ノ山襲名 披露大相撲
- 3,11,12日 留学経験者との座談会
- 13日 TOEFL ITPテスト学内受験
- 26日 留学生の話を知ろう!(ドイツ)
- 29日 (霞会館助成) 留学生バス旅行

10月

11月

- 16日 留学生の話を知ろう!(台湾、イタリア)
- 30日 留学生の話を知ろう!(チェコ、韓国)



- 18日 協定留学生を送る会(Farewell Party)
- 21日 (霞会館助成) 初春歌舞伎鑑賞会

12月



- 10日 (尚友倶楽部助成) 学習院女子大学長杯 留学生日本語スピーチコンテスト
- 14日 留学生の話を知ろう!(台湾、エストニア)

1月

留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

- 1 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
- 2 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附属機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。
(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
- 3 ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学はカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結しています。)
- 4 その他の留学: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などへ留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合には休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	備考
協定留学	原則2学期間(1年)	可	本学学費全額納入・協定校学費免除	1学期間(半年)の留学も可能・4年間で卒業可能
私費留学	原則2学期間(1年)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	1学期間(半年)の留学も可能・4年間で卒業可能
ダブルディグリー留学	①2年次秋学期から留学する場合: 原則5学期間(2年半) ②3年次秋学期から留学する場合: 原則4学期間(2年)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	最短5年間で卒業
その他の留学	1学期～学期別に定める休学可能期間内	不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	休学扱い・4年間で卒業不可

協定留学について

1. 協定留学とは

本学では、現在16の国・地域の24校の大学と交換留学協定を締結しています。この24校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学といいます。

2. 学生交換・派遣プログラムのある協定大学一覧(2023年2月現在)

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
イギリス	リーズ大学 リーズ/ウェスト・ヨークシャー州	IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
フランス	西部カトリック大学 アンジェ	ヨーロッパ言語共通参照枠B2レベル
イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学 ヴェネツィア	IELTS 5.5(Overall)以上 またはTOEFL iBT 72点以上 または実用イタリア語検定準2級以上 またはPLIDA, CELI, CILS B2レベル以上
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク/ハンブルク州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度
	ミュンヘン大学 ミュンヘン/バイエルン州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度 またはIELTS 5.5(Overall)以上 またはTOEFL iBT 90点以上
チェコ	パラツキー大学 オロモウツ	TOEFL iBT 72点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	TOEFL iBT 75点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	TOEFL iBT 72点程度 または IELTS 5.5(Overall)以上
エストニア	タリン大学 タリン	TOEFL iBT 72点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
中国	清華大学 北京	中国語検定試験(HSK)5級以上
韓国	誠信女子大学 ソウル	韓国語能力試験(TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学 ソウル	韓国語能力試験(TOPIK)中級以上 またはハングル能力検定試験3級以上 または TOEFL iBT 72点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
台湾	実践大学 台北	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上
	静宜大学 台中	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
	国立高雄大学 ※③ 高雄	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	TOEFL iBT 57点以上 または 同等レベルの英語能力
タイ	タイ・アサンプション大学 サムットプラカーン	新規協定校のため未定。 募集時にお知らせします。
オーストラリア	ディーキン大学 ※③ メルボルン/ヴィクトリア州	TOEFL iBT 69点以上 (W21以上) または IELTS 6.0(Overall)以上、 各6.0(L, R, W & S)以上
アメリカ	ウェストアラバマ大学 リビングストン/アラバマ州	TOEFL iBT 61点以上 または TOEFL PBT(ITP) 500点以上 または IELTS 6.0(Overall)以上、 各5.0(L, R, W & S)程度
	カリフォルニア大学デービス校 ※④ デービス/カリフォルニア州	TOEFL iBT 80点以上 または TOEFL PBT(ITP) 550点以上 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)以上
	ポーリンググリーン州立大学 ポーリンググリーン/オハイオ州	TOEFL iBT 71点以上 または IELTS 6.0(Overall)以上
	ミズウリ南部州立大学 ジョプリン/ミズウリ州	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上、 各5.0(L, R, W & S)以上
カナダ	ノーザンプリティッシュコロンビア 大学 プリンスジョージ /プリティッシュコロンビア州	TOEFL iBT 90点以上 (各セクション20点以上) または IELTS 6.5(Overall)以上、 各6.0(L, R, W & S)以上 または TOEFL ITP 570点以上
	レスブリッジ大学 レスブリッジ/アルバータ州	TOEFL iBT 70点以上 またはIELTS 5.5(Overall)以上、 各5.5(L, R, W & S)以上

※① 語学力の目安は2023年2月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。

※② L=Listening, R=Reading, W=Writing, S=Speaking

※③ 学部により異なる場合があります。

※④ 私費による派遣のみとなります。

2022年度 協定留學生 国籍別受入人数

国籍	国籍別総数
台湾	4
イタリア	3
ドイツ	3
イギリス	2
エストニア	2
チェコ	2
カナダ	1
韓国	1
ハンガリー	1
ポーランド	1
合計	20

2022年度 協定留学 派遣人数

国	人数
アメリカ	8
カナダ	4
イギリス	3
韓国	3
エストニア	2
チェコ	2
ドイツ	2
ルーマニア	2
台湾	1
ポーランド	1
合計	28

私費留學生 国籍別受入人数

2022年12月1日現在

国籍	国籍別総数
中国	26
韓国	9
ベトナム	2
マレーシア	2
台湾	1
合計	40

※除籍者、休学者除く

留学説明会について

留学に興味のある方は、
留学説明会に
出席してください。

春派遣は4月、秋派遣は9月に開催を予定
しています。日時の詳細は、G-Portでお知
らせします。

華道部

ごきげんよう。学習院女子大学華道部です。私たちは、華道の家元である「池坊」の先生のご指導の下、週に一度、活動しています。池坊は、いけばなの各流派の中で最も歴史が長く、「いけばなの根源」とも呼ばれています。和やかな雰囲気の中、一人ひとりが季節に合ったお花に親しみながらお稽古を行っています。

今年度から対面での活動を本格的に再開し、毎週のお稽古を通常通りに行うことができるようになりました。それに加え、広報の方や先生からお話をいただき、大学PR用動画撮影への参加や学内シンポジウムの壇上花の生け込みをいたしました。このような形で大学の広報やイベント



に関わることができる機会は非常に新鮮で、貴重な経験となりました。

華道部の魅力のひとつは、毎年和祭で開催する花展です。普段のお稽古の成果を発表する機会として、作品を出展します。今年度の和祭では、部員全員の個人作品はもちろん、学年ごとの合作の展示も行いました。すべての作品が一堂に会する光景は壮観で、とても華やかな展示となり、多くの方にご覧いただけたことを大変嬉しく思います。

その他にも、部員数名が日本橋三越花展やインターネット花展への出展、学生いけばなフェスティバルや池坊巡回講習会への参加をいたしました。

現在は来年度の雅祭に向けて、ハーバリウムの手作り体験を計画しております。これからも、お稽古を通して様々な植物に触れ、いけばなの技術や自分自身の心を育てていけるよう精進してまいります。

日本文化学科 3年
伊堂寺 美花

吹奏楽部

ごきげんよう。応援団吹奏楽部です。学習院大学とも合同で活動している私たちですが、今年度は部員約90名という今までにない大人数で活動して参りました。活動内容としては、吹奏楽部単体での活動と、リーダー部・チアリーダー部と共に行う応援団全体での活動の2つに分かれており、今年度もそれぞれの活動において多くの行事に参加いたしました。

吹奏楽部単体の活動では、吹奏楽コンクール、和祭、定期演奏会等がございます。今年度の吹奏楽コンクールでは都大会予選銀賞を受賞し、目指していた金賞には惜しくも届きませんでしたが、来年度は目標を達成できるよう日々精進していく所存です。秋には和祭に出演し、多くのお客様に楽しん



でいただくことができました。また、冬には学習院創立百周年記念会館にて第25回定期演奏会を開催し、今年度の集大成として精一杯の演奏を披露いたしました。

応援団全体の活動では、運動部応援、桜凧祭でのステージ演技等がございます。運動部応援では、他部のリーグ戦や四大学運動競技大会等に参加し、選手達を勝利に導けるよう華やかな演奏で応援いたしました。また、11月に学習院大学にて開催された桜凧祭では、応援団三部が一体となったステージを披露いたしました。

未だ新型コロナによる影響を受ける状況が続いておりますが、その中でもこうして大人数で沢山の行事に参加し、充実した部活動生活を送れたことを大変嬉しく思います。来年度も、様々な場面で私達の演奏を届けられるよう、尽力して参ります。

日本文化学科 2年
荒木 日菜美

ジャズダンス部AQUA

ごきげんよう。学習院女子大学ジャズダンス部AQUAです。私たちは、火曜日、金曜日の週二回、主に学習院女子大学体育館で活動しています。コーチのまつり先生、AQUAのOGで副コーチのながちゃんさんに熱いご指導を頂きながら、1年生27名、2年生13名、3年生11名の、現役生は計51名で活動しています。経験者初心者関係なく、お互いに刺激を与え合いながら、日々楽しく練習しています。雅祭や和祭などの学内の行事だけでなく様々なイベントに参加しており、活動の幅はとても広いです。

2022年度は、障害者の方に向けたチャリティイベントや、新宿区の商店会の感謝祭など、地域や社会に関わることができるイベントに参加させて頂きました。対面での練習も可能となり、数年断念していた合宿をすることも叶いました。また女子大の部活動ではありますが、他大学とのつながりも深く、9大学10サークルが参加する「ダンスプロジェクトα」という団体の1つとしても活動しています。そこでは他

サークルの人と、大学の隔たりなく一緒に練習したり公演に出演したりする機会もあります。そして1年の集大成として、αサークル対抗ジャズダンスコンテストに毎年出場させて頂いており、今年度は「ハロウィンホテル」をテーマとした作品を披露しました。

今後も3学年で仲良く切磋琢磨し合い、日々邁進して参ります。応援よろしくお願い致します。

日本文化学科 3年
薬師神 祭



ごきげんよう。雅祭実行委員会です。
雅祭とは、毎年4月に行われる新入生歓迎会です。本学の公認課外活動団体の紹介や、新入生同士の交流の場となるような企画を行い、新入生の皆様が本学での新たな学生生活を快適に過ごせるような場所を提供しています。
今年度の雅祭は、3年ぶりの対面開催となりました。コロナ禍により様々な制限がある中でも、公認課外活動団体によるパフォーマンスや相談会、勧誘活動など、各団体と新入生の皆様が直接交流することができ、機会を設けることができました。

また、昨年と同様、公認課外活動団体の紹介動画をYouTubeで配信し、パンフレットはオンライン上でも閲覧できるようにするなど、当日学校に行けなかった方も雅祭を楽しんでいただけるような工夫をしました。
依然として、新型コロナウイルスの収束が見えず、不安な状況が続いておりますが、雅祭を契機として、新入生の皆様が新たな一歩を踏み出し、充実した学校生活を過ごせており、ましたら幸いです。
最後に、雅祭を開催するにあたりご協力くださった教職員の皆様、各団体の皆様、関係者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



「和祭」を振り返って

やわらぎさい

2022年度実行委員長
国際コミュニケーション学科 3年

西山 依吹

ごきげんよう。今年度の和祭は新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で10月8日、9日に数年ぶりに対面で開催致しました。今年度も受験生や、学習院女子大学の学生、そしてご家族など多くの方々にご来校いただき大変嬉しく思っております。

のように、人との繋がりを大切にして人と人が支え合える優しい世界になりますように。今年度のテーマ「紬～tsunagi～」には、このような願いが込められています。

今年度の和祭は「紬(つむぎ)～tsunagi～」をテーマに委員一同、活動を進めてまいりました。新型コロナウイルスが流行して一人一人が輝くことのできる場所や機会が減ってしまいました。オンラインでの生活が長く続いたことよって人と支え合うことの大切さを再認識することができました。私たちの世界は、人と人との繋がりで成り立っています。糸と糸とが織りなすことで成り立っている織物

のよう、人との繋がりを大切にしたいと思いましたが、対面での開催に踏み切れませんでした。例年、大人気である各団体によるステージ発表やゲストによるトークショーそしてミスコンテストなど今年も大きな賑わいを見せていました。

今年度の実行委員は全員オンラインでの開催しか経験したことがなかったため、対面での開催は未知の世界で当日を迎えるまで不安も多かったです。しかし今回のテーマでもある糸と糸が織りなすことで成り立っている「紬」のように、仲間と支え合いながら実行委員一丸となつて企画や準備を進め、無事に和祭を終えることができました。実行委員全員で創り上げた和祭は、心に残る素敵な思い出です。本当にありがとうございました。

最後となりましたが、和祭の開催・運営にあたりご理解ご協力をいただきました教職員の皆様、地域の皆様、企業の皆様、卒業生の皆様、そして在学生の皆様へあらためて実行委員一同心より御礼申し上げます。

今年度の和祭は「紬(つむぎ)～tsunagi～」をテーマに委員一同、活動を進めてまいりました。新型コロナウイルスが流行して一人一人が輝くことのできる場所や機会が減ってしまいました。オンラインでの生活が長く続いたことよって人と支え合うことの大切さを再認識することができました。私たちの世界は、人と人との繋がりで成り立っています。糸と糸とが織りなすことで成り立っている織物

のよう、人との繋がりを大切にしたいと思いましたが、対面での開催に踏み切れませんでした。例年、大人気である各団体によるステージ発表やゲストによるトークショーそしてミスコンテストなど今年も大きな賑わいを見せていました。

今年度の実行委員は全員オンラインでの開催しか経験したことがなかったため、対面での開催は未知の世界で当日を迎えるまで不安も多かったです。しかし今回のテーマでもある糸と糸が織りなすことで成り立っている「紬」のように、仲間と支え合いながら実行委員一丸となつて企画や準備を進め、無事に和祭を終えることができました。実行委員全員で創り上げた和祭は、心に残る素敵な思い出です。本当にありがとうございました。



就職力

キャリア支援スケジュール (2022.1.31時点)

開催月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・<23卒>内定獲得に向けた就活セミナー ・就活スタートアップ講座&就職情報サイト活用講座(前期) ・就活ゼミ説明会 ・夏インターンシップガイダンス ・公務員プレセミナー ・自己PR&ガクチカ作成講座 ・優良企業をみつけよう!会社四季報を読み解く6つのポイント ・公務員セミナー<第1弾>~公務員試験概要&学習方法~ ・インターンシップ志望動機作成講座 ・就職四季報活用術~入社後に活躍できる企業の選び方~ ・大手企業人事経験者による*どこでも通過するES・企業側の評価ポイントを知ろう*
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・面接対策セミナー ・インターンシップ選考に向けたエントリーシート対策講座 ・キャリア支援部x大手マスコミ関連会社職員による「就職質問・相談会」 ・(全6回)就活ゼミ ・公務員セミナー<第2弾>市役所で働くには ・筆記試験(Web試験含む)対策講座 ・(全3回)23卒対象企業説明会 ・面接対策基礎講座(座学編) -個人・集団面接/GDについて知ろう!-
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・(全3回)23卒対象 企業説明会 ・元人事が教える!グループディスカッション体験セミナー(実践編) ・(全6回)就活ゼミ ・自己PRを見直そう!<4年生対象>求人紹介セミナー ・女性の働き方講座-総合職と一般職を比較してみよう- ・公務員セミナー<第3弾>公務員の仕事の魅力 ・企業訪問時のマナー講座(所作/身だしなみ/メイク/髪型) ・優良BtoB・隠れた中堅中小企業の探し方 ・内々定者による就職活動のススメ~先輩それぞれの内々定までの道のり~ ・就職活動に差がつく!日経新聞の読み方・業界研究講座 ・<1年生対象>少し意識するだけで将来が変わる!1年生からの大学生活の送り方 ・デザイン思考テスト対策講座 ・<2年生対象>早く準備して損はない!2年生から将来やインターンシップを考えるコツ
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・留学経験は武器になる!「日本人留学生向け就職ガイダンス」 ・(全12回)グループディスカッション練習会 ・就活応援!好印象メイクセミナー ・内々定者による就職活動のススメ~先輩それぞれの内々定までの道のり~ ・女子大学合同企業説明会 ・公務員セミナー<第4弾>~夏からはじめる公務員試験の学習方法~ ・「まだ間に合う!インターンシップの探し方」セミナー ・PR業界出身者によるキャッチコピーの付け方講座 ・主に若手女性人事担当者10名との人事交流会 ・元大手人事採用担当者による合同ES添削会 ・金融機関出身者によるIR情報の読み方講座 ・アプリ担当者による中小企業・インターン情報の探し方 ・主にBtoB・中小企業10社による企業説明会 ・23卒対象企業説明会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験対策講座(非言語)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・アナウンサー試験対策講座 ・<在校生対象>卒業生がリアルに語るTalk Live! ・求人紹介 ・後期 就活スタートアップ講座-後期にやるべきことが分かる!就活準備講座- ・自己PRブラッシュアップ講座 ・業界研究ランチセミナー
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・(全8回)業界研究ランチセミナー ・「動画選考」および「Web/対面」面接対策セミナー ・(全6回)就活ゼミ ・(全3回)内定者報告会 ・会社四季報を活用した業界・企業研究のススメ~ココを見れば分かる!伸びる会社、伸びない会社~ ・女子大学合同企業説明会 ・いよいよ本番!確実な得点アップにつながる「筆記試験対策」講座 ・GD対策講座(実践編)【個人評価よりチーム評価であることを理解する】
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・(全6回)内定者報告会 ・(全7回)業界研究ランチセミナー ・集団面接対策 ・オンラインでもオフラインでも印象UPする!就活メイク/髪型/身だしなみ/マナー講座 ・外国人留学生の就職活動について ・(全2回)内定者による就活相談会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・SPI受検会 ・(全2回)業界研究ランチセミナー ・内定者による就活相談会 ・「ES対策講座(実践編)」【読まれるES作成のポイント】 ・面接対策セミナー
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・(全2回)初めてでも大丈夫!グループディスカッションセミナー
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学内合同業界研究セミナー ・就活直前対策講座~2月末までにやっておくべきこと~ ・本番直前!グループディスカッションセミナー【実践編】 ・(全3回)本番直前!元採用面接官によるグループ模擬面接
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・女子大学合同企業説明会

「グローバルで多様性に開かれた学びの空間へ」という理念のもと、近年、学生達は様々な業界へチャレンジし、内定を得ています。小規模校のため、各企業への就職者数では大規模総合大学と比較し少数ですが、実就職では高い就職率を打ち出しており、大いに健闘していることがわかります。

キャリア支援部のサポート体制

キャリア支援部では、年間を通して個別面談を実施しています。応募書類添削や面接練習では、対話の中で個々の経験や強みを引き出すことを大切にしており、1時間の枠で一人ひとりとじっくり向き合い、面談を繰り返すことで、徐々に自分に自信を持ってアピールできるよう支援しています。また、各学年向けプログラムや学生のニーズに応じたセミナーを随時企画・実施しています。より多くの学生が参加しやすいよう、授業のない時間帯に実施することで、学業と就職活動の両立が図れるよう取り組んでいます。ほとんどのセミナーに全学年が参加できるようにし、低学年からのキャリア形成の機会を設けております。なお、22年度は21年度と同様、コロナ禍に対応するオンラインを中心とした体制となりましたが、コロナ禍前と同じクオリティのものを提供し続けるという方針の下、年間約130回のセミナーを実施しました。小規模校ならではのきめ細かい支援として、ゼミ教員とも連携し、学校全体で学生を支援していることも、本学の特徴です。

速報!

充実したキャリアサポートにより、
本学の学生は社会で高い評価を
いただいています。

2022年
著名400社
実就職率

(卒業生数500人以下の大学)

1

全国
女子大
位

2022年
実就職率学部
系統別編(国際系)

(卒業生数400人以上の学部)

1

全国
女子大
位

*全て大学通信調べ

*著名400社は、日経平均株価指数の採用銘柄に加え、会社規模や知名度、大学生の人気企業ランキングなどを参考に、大学通信が選定

<令和4年度業界研究セミナー 主な参加企業>

アクセンチュア株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社パレスホテル、郵船コーディアルサービス株式会社、稲畑産業株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、三井物産ケミカル株式会社、三井倉庫ホールディングス株式会社、キュービータマゴ株式会社、西村あさひ法律事務所、株式会社JALスカイ、楽天カード株式会社、株式会社村田製作所、三井住友信託銀行株式会社、株式会社紀ノ國屋、リソなグループ、高見株式会社、第一生命保険株式会社、株式会社マイナビ、森・濱田松本法律事務所、日本郵便株式会社、株式会社ファミリア 等

キャリア・就職支援

入学したその日から卒業後の将来を見据えて、一人ひとりを手厚くバックアップします。

「不安や悩みを解決していただき、安心して就職活動を進めることができました。」



西村あさひ法律事務所
英語コミュニケーション学科
4年

塚本 莉々香

3年次 4月～2月

ランチセミナー、内定者報告会

就職活動の流れや、取り組み方など、基本的なことを知ることができたので、ランチセミナーには積極的に参加するようにしていました。特に、エントリーシートの書き方は勉強になりました。何を、どのように書くべきかを知っておくことで、実際の就職活動でもスムーズにエントリーシートを書き始めることができました。また、内定者報告会にもよく参加していました。業界や職種を知ることができるだけでなく、先輩方の貴重な経験談を伺うこともできます。私自身も、内定者報告会がきっかけで、内定先の職種に興味を持ちました。

3年次 12月

面接対策セミナー

社会人の方に面接練習をしていただける貴重な機会だと思い、参加しました。良い点も、改善すべき点も教えてくださいるので、その後の個人練習にも活かすことができました。また、他の学生から刺激を受けて、就職活動に力が入りました。

3年次 10月～4年次 4月

個人面談

個人面談を通じて、多くのアドバイスを頂いたことで自信ができました。自己分析と一緒にしていただき、その上で自分に合った業界や職種を提案していただきました。また、エントリーシートの添削では、より良い言い回しと一緒に考えて下さり、自分が納得のいくエントリーシートを完成させることができました。

2021年度就職状況

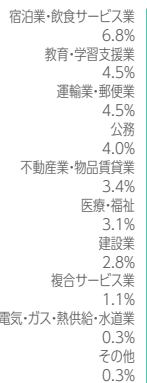
(2021年9月・2022年3月卒業生)

令和4年3月31日現在

卒業決定者	407人
就職希望者	363人
就職希望率	89.2%
就職内定者	354人
就職内定率	97.5%

主な就職先(数字は就職者数)

産業	企業名
サービス業	スタッフサービス(3)、ペリーベスト法律事務所(3)、レイス(3)、アグセンチュア(2)、エン・ジャパン(2)、さが美グループホールディングス(2)、パーソルテンプスタッフ(2)、PwCコンサルティング(2)、ファーストリテイリング(2)、郵船コーポリアルサービス(2)、USE N-NEXT HOLDINGS(2)、アインホールディングス、赤坂国際法律会計事務所、アーキジャパン、アスパーク、アドバ、アライドレシスホールディングス、あらた国際法律事務所、ALSOK介護、アンダーソン・毛利・友常法律事務所、伊藤忠フィナンシャルマネジメント、エイト日本技術開発、ADKホールディングス、Evand、MRT、青梅商工会議所、グランディール税理士法人、グリッドグループホールディングス、グレースコミュニケーション、シェアリング・ビューティー、GISELE、ジャンボ、スタッフサービス・ホールディングス、総合警備保障、第一ビルメンテナンス、匠総合法律事務所、DSP、デロイト トーマツ アクト、電通デジタル、東京警備保障、新潟博報堂、日拓リアルエステート、日本自動車連盟、日本マニュファクチャリングサービス、のぞみ総合法律事務所、パーソルキャリア、パーソルワークスデザイン、パルグループホールディングス、パルテス、ピーコムグループ、船井総研ホールディングス、マンパワーグループ、三浦法律事務所、みずほビジネスサービス
情報通信業	アイル(2)、日本システム技術(2)、日本タタ・コンサルタンシー・サービス(2)、トランス・コスモス(2)、マイナビ(2)、アイエックス・ナレッジ、アイピーエス、アクティクス、アドバストラテジックシステムズ、アルク、インフィニティエージェンツ、インフォメーションサービスフォース、インフリー、ARアドバンストテクノロジー、ATL systems、NECキャピタルリソリューション、エヌ・ティ・エー・コムウェア、エポックル、MS&AD事務サービス、オプロ、かんぽシステムソリューションズ、キャノンITソリューションズ、コムチャ、ザイマックスウイズ、シアトルコンサルティング、ジェイコム東京、システナ、ジティコム、ジュビターテレコム、ソリューション・コム横浜、第一情報システムズ、地域新聞社、知恵豆、TIS、ティエム2、デジタルフォールン、出前館、東京コンピュータサービス、ドコモ・サポート、ニッセイコム、日本ディスプレイ、ネクストクリエーションズ、日立ハイシステム21、ビッグローブ、富士通コミュニケーションサービス、富士通ネットワークソリューションズ、マークエコー、三菱商事フィナンシャルサービス、三菱電機インフォメーションシステムズ、三菱電機インフォメーションネットワーク、リンクフォース、ルームズ、レイサス
卸売業・小売業	MXモバイリング(3)、アインファーマシーズ(2)、イオンリテール(2)、サンテック(2)、ノジマ(2)、アダストリア、いすゞ自動車首都圏、伊藤忠オートモビル、稲畑産業、ヴァンドームヤマダ、エービーシー・マート、オーケー、極洋、クラシード、クレオメテカール、ココカラファインヘルスケア、三平、ソンスホールディングス、スタンディングポイント、須原屋、住友商事マネックス、TSC、豊島屋、ナイス、日本アルコール販売、俄、野澤組、バイセルテクノロジー、はせがわ、ビックカメラ、富士機材、富士薬品、マルエツ、丸紅フォレストリンクス、まるやま、京彩グループ、三井物産ケミカル、三菱商事RTMジャパン、ヤマエ久野、やまと、ウヰヤワ商事、ライオン事務器、リコージャパン、ルイ・ヴィトンジャパン
金融・保険業	朝日生命保険(2)、西武信用金庫(2)、日本生命保険(2)、富国生命保険(2)、三井住友海上あいおい生命保険(2)、三井住友トラストクラブ(2)、三菱UFJ銀行(2)、アコム、イオンプラダクティファイナンス、SMBCCコンシューマーファイナンス、かながわ信用金庫、かんぽ生命保険、きらぼし銀行、京葉銀行、高知銀行、埼玉信用農業、しんきんカード、住商インシュアランス、住友生命保険、セゾン自動車火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、太陽生命保険、千葉銀行、千葉興業銀行、東京海上日動あひるんコンサルティング、日本スタートラスト信託銀行、ホンダファイナンス、丸三証券、みずほフィナンシャルグループ、三井住友信託銀行、明治安田生命保険、横浜銀行、楽天カード
製造業	アドヴァックス、アルパージュ、ウシオ電機、エアウィーブ、エンプラス、オーシカ、普公学生服、ギガフォトン、guzu、エンタープライズ、桂新堂、京浜ラムテック、光和衣料、山洋電気、SHIGETA、松風、住友化学、タチエ、テラル、パナソニック、林電子、ファミリア、フジクラ電装、フルタ製菓、古林組工、アルボユ、紅中、ミツトヨ、三菱ケミカル、三菱自動車工業、村田製作所
宿泊業・飲食サービス業	星野リゾート・マネジメント(5)、森ビルホスピタリティコーポレーション(4)、アパホテル(3)、エイチオーエス、JR東日本サービスクリエーション、ちよだて、東京會館、南西楽園リゾート、日本レストラシステム、日本ヒルトン、東山ホールディングハイアットリージェンシー京都、ヒルトンニセコレレッジ、星野リゾート、目黒雅叙園、ルートインジャパン
教育・学習支援業	学習院(3)、埼玉県教育委員会(2)、LAVA International(2)、神奈川県教育委員会、神奈川県市町村教育委員会(除：横浜・川崎市)、千葉県教育委員会、中央出版ホールディングス、ティルwind、東京都教育委員会、高齢・障害・求職者雇用支援機構、ブレンバンク、臨海
運輸業・郵便業	エヌ・ティ・エー・ロジスコ、近鉄エクスプレス、近鉄ロジスティクス・システムズ、ケイビン、京浜内外フォワーディング、国際コンテナ輸送、鈴与東京通関、月島倉庫、ディー・エイチ・エル・ジャパン、DHL サプライチェーン、寺倉倉庫、東京臨海高速鉄道、日本トランスシティ、富士フイルムロジスティクス、三菱ケミカル物流、三菱倉庫
公務	東京23特別区人事委員会(2)、市川市、宇都宮市、国税庁(東京国税局)、埼玉県警本部、埼玉県農業共済組合、狭山市、千葉市、戸田市、飯能市、藤沢市、武蔵野市、横浜市
不動産業・物品賃貸業	ウィダックス、環境ステーション、翔栄、スバル興産、生和コーポレーション、生和不動産保証、大和リビング、みずほリース、三井不動産ビルマネジメント、三井不動産リアルティ、三井不動産レジデンシャルリース、横河レンタ・リース
医療・福祉	ケアリッツ・アンド・パートナーズ、歯科ハミール、SOMPOケア、台場フロンティアデンタルクリニック、東京海上日動メディカルサービス、東京セントラルパロロジーラボラトリー、日本年金機構、ベネッセスタイルケア、ポピンス、ミライプロジェクト、目黒古田内科クリニック
建設業	アイジーコンサルティング、旭化成リフォーム、朝、朝日エディック、熊谷組、K-リフォーム、合田工務店、積水ハウス、SOEIホールディングス、三井住友建設
複合サービス業	生活クラブ、日本生活協同組合連合会、棲名酪農協同組合連合会、横浜農業協同組合(JA横浜)
電気・ガス・熱供給・水道業	田邊工業
その他	アイリックコーポレーション





株式会社パレスホテル

日本文化学科 4年

佐々木 美波

私は接客業のアルバイト経験から、お客さまと直接的に関わり、多くの方々を笑顔にできる仕事がしたいという想いを抱くようになり、ホテル業界一本で就職活動を進めました。

大学3年次の夏から企業の説明会や1day仕事体験に手当たり次第参加したのですが、参加しただけで就職活動をした気になってしまい、ほとんど成長することなく3年次の夏を終えてしまいました。そして3年次の秋になり、初めてインターンシップ選考のエントリーシートを書く機会がありました。自分なりに書いてみたエントリーシートを従兄弟に添削してもらったところ「文字をただ並べるのではなく、パッと見た時に

読みたいと思わせるようなエントリーシートを書かなければいけない」と指摘され、様々な助言を基に完成させることができました。そしてそのエントリーシートが通り、希望していたインターンシップに参加することができました。それを機に、頑張れば頑張るだけ結果が付いてくる就職活動は苦ではないかもしれないと思うようになりました。また「〇〇が終わったら行きなかったカフェに行こう」と、息抜きをすることで楽しく就職活動を乗り越えられたのだと思います。

皆さんも周りの人に頼りながら、自分のペースで就職活動を頑張ってください。心から応援しています。

「就職活動は大変そう…落ちたら悲しくなる…」と、始める前にこのように考える人は少なくないでしょう。その通りだと思います。就職活動は、今までの人生の中で最もつらく、苦しい、地獄のような時期だとはじめから覚悟してください。でも、それを乗り越えられるかどうかは自分次第です。乗り越えたあなたは無敵です。

私の就職活動は、ただ「就活を始めた」と言うより、バンダイに入るための「戦いを始めた」という方が、正しいかもしれません。

私は、就職活動に関する事前調査や準備はせず、1、2年次の頃、就職活動をしている先輩たちの間の会話を聞いていて、どこ吹く風のように聞き流していました。そして、就職活動を

はじめた3年次の1月、「とにかくやってみる、進めばなんとなくわかってくる」ではなく、バンダイしか志望していなかったので、チャンスは一回しかありませんでした。

一つのゲームの初心者になったように、一回で勝ちたいなら、ポストと戦う前には、沢山の攻略法を調べて駆使することが大切です。私は、調べれば調べるほど「会社が私を必要な理由」に気づくことができました。

人間は量産化のロボットではないので「同じように、一つの正解を答える」ということはないでしょう。自然に、自信をもって、自分のままで、本当の気持ちと実力を会社に伝えてください。必ず自分と合う会社が見つかります。



株式会社バンダイ

日本文化学科 4年

張 嫣然



厚生労働省

国際コミュニケーション学科 4年

前原 円香

私が公務員を目指すようになったのは、昔から「地方創生」に興味がありその地域に密着して働くことができることと、アルバイトの経験を通して人々の生活を支え基盤を作ることがやりがいだと感じたからです。

大学の授業をまともに受けて、アルバイトと友達と遊ぶことで勉強が疎かだった私が、数ヶ月間何もかも我慢して勉強し内定を勝ち取ることができたのは、応援してくれる友達や家族、そして同じ就職先を目指す仲間が存在が大きかったからです。仲間と勉強の習慣付けをしたこと、説明会や面接の情報を色々な人から貰い、作戦を練ったからこそ勝ち取った合格ではないかと今

では思います。内定先では、労働者をサポートし安心して働ける地域を作ることによって、地方創生に貢献できると自負しています。

就職活動をするにあたって、自分は何がしたいのかわからなくなることが多々あります。また、なかなか辛い状況を周囲に話せず、抱え込んでしまうことも。そういう時は一度就職活動から離れてみるとよいのではないのでしょうか。思い詰めていると何も見えなくなることがありますが、気分転換をすることで何か見つけることがあると思います。焦らず自分のペースで納得のいく就職活動になればと思います。皆様が良いご縁に巡り会えるよう、応援しております。

就職活動。始める前は「一年間ぎぎぎのスケジュールで過ごして、沢山の面接を受けて一喜一憂する」そんなマイナスイメージしか抱いていませんでした。しかし、就活を終えた今だから言えることは、就活は人それぞれで良いということです。私が内定を頂いたのは現在入社予定の一社のみ。面接を受けたのはたったの二回。これは、満足した結果であり、自分が納得して決断を下したものです。

就活をしていく中で、私が大切にしていたことは「こんな大人になりたい」と先輩社員を見て思えるかどうか、でした。どんなに小さな言動であっても印象に残ることはあり

ます。ちょっとしたインターン開始前の雑談。学生に対するフィードバックの仕方。表情。仕草。今の内定先の人々のあらゆる姿が、鮮明に記憶に残りました。細部まで気を配っていることが、聞き手である私たち学生にもとても伝わり、何より働いている皆さんの笑顔がとても素敵でした。「そんなことで自分の将来を決めたの?」と思われるかもしれませんが、しかし、これが私であって、私になりたい未来です。

学習院女子大学での四年間を経て見つめることが出来た私だからこそ、春から胸を張って笑顔で新たな環境に挑戦できます。



株式会社ニトリ

英語コミュニケーション学科 4年

野口 さくら



専任教員紹介

日本文化学科

伊藤 守幸	教授	平安文学研究、比較日本文学研究
今橋 理子	教授	日本美術史(江戸絵画史)、比較日本文化論
岩淵 令治	教授	日本近世史
内野 儀	教授	表象文化論、舞台芸術(演劇・舞踊)論
宇都宮 由佳	准教授	食文化、生活文化
木村 直恵	准教授	日本近代史、文化史
工藤 雄一郎	准教授	先史学、植物考古学、環境考古学、年代学、漆文化史
越塚 美加	教授	図書館情報学
佐藤 琢三	教授	日本語学(現代語の意味論・文法論)
澤田 匡人	准教授	感情心理学
品川 明	教授	フードコンシャスネス教育、環境教育、食品科学、生態学、コミュニケーション
清水 将吾	准教授	情報科学、データ科学
清水 敏男	教授	現代美術史、アートマネジメント(博物館学)
土屋 有里子	准教授	日本中世文学、説話文学、キリシタン文学
時安 邦治	教授	社会学・社会思想
橋本 彩	准教授	スポーツ人類学、文化人類学
福島 直恭	教授	日本語学、日本語史
福島 雅子	准教授	日本服飾史、染織史

国際コミュニケーション学科

石澤 靖治	教授	国際コミュニケーション論、米国政治
伊藤 由紀子	教授	国際協力、NPO、NGO
ウーゴ・ミズコ	准教授	建築学、歴史的建造物の保存修復史
江藤 正己	准教授	図書館・情報学(情報検索、情報システムなど)
大桃 敏行	教授	教育行政学、教育制度論
北川 香子	教授	東南アジア史・地域研究
金城 亜紀	教授	経営学、経営史
金野 純	教授	社会史、歴史社会学、東アジア地域研究(主に現代中国)
佐久間 みかよ	教授	アメリカ文学・文化
櫻井 大三	教授	国際法
櫻井 宏明	准教授	国際経済、日本経済、アジア経済
澤田 知香子	教授	英語圏文学(イギリス小説)・文化、ポストモダニズム理論
荘林 幹太郎	教授	農業政策、農業貿易と環境、農業環境・資源政策
武井 彩佳	教授	ドイツ現代史、ホロコースト研究、エスニシティ研究
中島 崇文	教授	中・東欧の歴史、政治、宗教、社会、文化、民族問題
畠山 圭一	教授	国際政治、アメリカ政治外交、日米関係
古庄 信	教授	英語学(歴史統語論、特にシェイクスピアと聖書の語法)、イギリス文化
正本 忍	教授	フランス近世史、社会史、法制史
羅 京洙	教授	国際関係論、国際移動論、東アジア地域研究、現代コリア研究

英語コミュニケーション学科

ウィン・グン	教授	ビジネス英語
萱 忠義	教授	応用言語学、英語教育、早期英語教育、英語教育へのICT活用
ギュンター・ディルク	教授	英米文学
クレイ・サイモン	教授	翻訳研究、英語教育
高橋 礼子	准教授	応用言語学、World Englishes、English as a Lingua Franca
田島 千裕	准教授	異文化コミュニケーション、教育学、混合研究法、留学研究、英語教授法



武井 彩佳 教授

『歴史修正主義:ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで』
著

出版社名/中央公論新社

出版・発行年月/2021年10月

内容/史実について意図的に歴史を書き替える歴史修正主義。19世紀末のヨーロッパで登場し、第二次世界大戦後はナチ擁護やホロコースト否定の形態をとった。歴史修正主義の「歴史」を振り返り、法規制の現状を考える。



金野 純 教授

『論点・東洋史学』
執筆

出版社名/ミネルヴァ書房

出版・発行年月/2022年1月

内容/東洋史学に関する158の「論点」を最新の研究動向に照らして解説した一冊。



金城 亜紀 教授

『法と経営研究 第5号』
共編著

出版社名/信山社

出版・発行年月/2022年2月

内容/「法」と「経営」の複合的視点から、新しい学知の創生を目指す研究雑誌。第5号では、対談「通訳者から見た日本社会」などを掲載。



畠山 圭一 教授

『テキスト日米関係論—比較・歴史・現状—』
編著

出版社名/ミネルヴァ書房

出版・発行年月/2022年4月

内容/日米関係の歴史と現状、両国の政治・経済・社会・文化等の特質とそれらの比較、日米交流と相互作用、国際社会における意義と役割など、複眼的アプローチによって日米関係の全体像を把握できる格好の書。



中島 崇文 教授

『モルドヴァ民話』
解説

出版社名/明石書店

出版・発行年月/2022年7月

内容/ルーマニアとウクライナに挟まれた東欧の小国モルドヴァ。14世紀半ば以来、周辺大国の狭間で厳しい立場に置かれながらも伝統文化と言葉を武器にアイデンティティを保持してきた同国の一端を知る珠玉の民話13篇。



土屋 有里子 准教授

『『沙石集』の世界』
著

出版社名/あるむ

出版・発行年月/2022年10月

内容/鎌倉時代、尾張国長母寺の無住道暁によって編纂され、多くの人々に読み継がれてきた『沙石集』について、専門的ながらも平易な文章で全貌にふれた初の一般書。



北川 香子 教授

『アジア人物史第7・8巻』
執筆

出版社名/集英社

出版・発行年月/2022年12月

内容/17～18世紀のタイ湾岸地域に華人の半独立港市国家ハーティエンを興隆させ、江戸時代の日本と交流したことが知られている鄭玖・鄭天賜父子と、17～19世紀の4人のカンボジア王に関する部分を執筆した。

「新たな日常」に向けたサービスについて

コロナ禍に入ってから3年目を迎えた今年度は、利用者の皆様が少しでも安全に館内を利用できるよう環境整備に努めると共に、1日でも早く従来行ってきたサービスを再開できるよう、新たな生活様式に対応した取り組みを進めている最中です。

今回は現時点(2022年12月)の図書館サービスの状況、館内環境などについてご紹介します。

図書館から のお知らせ



■ サービス状況

大学の授業形態が全面遠隔だった春学期と秋学期の開始2週間を除き、従来の開館時間(平日8:50-20:00 / 土曜8:50-18:00)に戻しました。但し、密を回避させるため、館内滞在者数100名まで、閲覧席の間引きは継続中です。

春学期は学期を通して遠隔授業となった科目が複数あったことから、昨年度と同様に遠隔授業の受講が可能な専用のエリアを設けました。

秋学期からは遠隔授業科目の減少に伴い、遠隔授業専用エリアを廃止しました。代わりに、個人キャレルを中心に自習・遠隔授業受講など目的に関係せず利用できるよう運用を変更しました。同時に、個人キャレルの利用予約を人を介さずに館内にある専用端末から行えるようにしたところ、予約状況も順調な状況です。

また、新型コロナウイルスの罹患、濃厚接触者になった学生については、申し出により、郵送サービスの利用、貸出中資料の利用期限延長などの対応も行っています。

■ 館内整備

① グループ学習エリア(ラーニングスクエア)の再開

かねてより要望の多かった館内でのグループ学習について、11月より制限付きで再開しました。グループ学習が可能なエリアのうち、「ラーニングスクエア」を定員の半数以下の座席数かつ座席と座席の間を1m以上空けた形で再開しました。4人席が1テーブル、2人席が3テーブル、計4テーブル・10

名分です。学生たちも2~3人のグループで来館するケースが多く、問題なく利用されています。



ラーニングスクエア

② 個人ブースの設置

4月に、従来の参考書架スペースにある書棚を一部撤去し、密閉型の個人ブースを3台設置しました。過去2年間に館内で遠隔授業を履修する学生たちから「周りに人がいる中で授業のための発話をするのが、迷惑をかけていないか非常に気になる」という声が多数寄せられ、設置を検討しました。学生からも非常に好評で、遠隔授業受講のほか、就職活動の面接、自習などにも利用されています。開講期の平日は満室の日が続いています。



個人ブース



個人ブース

■ ブック・セレクターの再開

コロナ禍で中止していた「ブック・セレクター」(学生選書委員)の募集を3年ぶりに再開しました。応募状況も好調で、1~3年生から応募があり、募集開始日から1週間ほどで定員に達しました。ブック・セレクターの学生たちは11月中旬に都内大型書店へ直接行き、他の学生たちに読んで欲しいと思う資料を選書してきました。彼女たちが選書した資料100冊強は、1月中旬に図書館2階に並ぶ予定です。

図書館では、引き続き利用者の皆様が安心して図書館資料を利用できる環境を整備すると共に、徐々に従来の運用へ戻すよう取り組んでまいります。

保健室より

保健室は、学生の皆さんが心身ともに健康な学生生活を送れるように支援しています。

春の定期健康診断を通して病気の予防や早期発見に努めています。

日常業務としては、学校医や看護師による健康相談、疾病の応急処置、医療機関の案内等を行っています。

場 所	1号館1階
開 室 時 間	月曜日～金曜日 8:40～16:45 ※授業期間中（木曜日を除く）は18:00まで 土曜日 8:40～12:30
学校医来室時間	隔週月曜日 14:00～16:00 隔週火曜日（メンタルヘルス相談）14:30～16:30 *予約制 家族の方の同席や家族の方のみでも相談が可能です
電 話 ・ F a x	03-3203-7503（直通）
E-mail	gwc-hlth@gakushuin.ac.jp

保健室では以下のような業務を行っています。

- 定期健康診断（毎年4月初旬）
- 健康診断証明書の発行（和文・英文）
- 英文予防接種証明書の発行
- 学校医・看護師による健康相談
- 医療機関の紹介・案内
- 応急処置・ベッド休養
*医療機関ではありませんので応急処置のみを行っています。
薬を渡すことはできませんので、日頃からご自身に合う薬の携行をお願いします。
- 自動計測機器による各種測定
- 健康教育（上級・普通救命講習会の実施、雑誌や資料の閲覧、健康に関する最新情報の掲示等）
- 行事救護（雅祭、和祭、入試、オープンキャンパス等）



保健室の入口です

また、新型コロナウイルス感染症対策において、女子大学は管轄する保健所職員と連携しながら、学校医・学校薬剤師・看護師・教職員がチームとなり対策を行っています。保健室スタッフは以下のような業務を実施しています。

- 学生・教職員の感染防止継続への啓発
- 学校医・学校薬剤師に相談し、教室環境測定を行いながら教室内の適正な換気方法の助言
- 女子大学構内のアルコール手指消毒液の設置と管理
- 感染対策用の備蓄品の整備と管理
- 新型コロナウイルス罹患者・濃厚接触者の学生・教職員の健康観察とその後のフォロー

カウンセリングルーム(C.A.T.ルーム)のごあんない

大学生活が、楽しく充実したものになることを願って、カウンセリングルーム(Come and Talk=C.A.T.ルーム)がおかれています。

自分の生き方、将来への足がかりを築くこの時期には、誰でもつまずいたり、悩んだりするものです。「悩むこと」によって、新しい扉が開かれていきます。「たいしたことじゃないわ…」と思っている、それが胸にわだかまって、気になり続けていることはありませんか？悩むことを恥ずかしながら、どんな小さなことでも気軽に尋ねてください。本学学生についての父母の皆様からのご相談も承っております。

- 開 室 日 時 : 月曜日～金曜日 10:00～17:00
- 場 所 : 仮設棟1階
(R5年9月に4号館に移転予定)
- 電 話 : 直通&FAX 03(3203)7169 または03(3203)7015
- E-mail : gwc-cat@gakushuin.ac.jp
- カウンセラー : 専任1名 非常勤2名
(臨床心理士・公認心理師)

- 毎年4月に「一人暮らしの人のウェルカムパーティー」を開催
- 毎年12月に「ココロとカラダをすこやかに」のテーマでワークショップを開催

※新型コロナウイルス感染症予防のため、対面相談の他に、Zoom、電話、メールでも対応しています。

学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	152	179	28	359	3
2年	149	179	36	364	6
3年	159	206	49	414	-
4年	151	184	53	388	-
合計	611	748	166	1,525	9

(令和4年12月1日現在)

令和5年度 女子大学奨学金 一覧表

*特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問い合わせください。

制度名	金額(円)	募集時期	貸・給別	備考		
安倍能成記念教育基金奨学金	450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金	学部学生 150,000 大学院生 300,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象		
学習院女子大学大学院研究奨励金	大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り		
学習院女子大学学費支援給付奨学金	学部学生 第2期授業料相当額	9月中旬	給付	採用1ヶ年		
学習院女子大学奨学金	大学院・学部学生 学費納付金相当額以内(通算2学期分以内)	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 令和2年度以前入学対象		
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金	在学中利子分給付(年50,000を上限)	11月上旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請		
学習院女子大学海外留学奨学金	500,000以内	G-Port	給付			
学習院女子大学海外留学奨学金 (交換によらない難関協定校への留学)	600,000以内	G-Port・掲示による	給付			
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金	現地研修100,000以内・オンライン研修30,000以内	G-Port・掲示による	給付			
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金	100,000以内	G-Port・掲示による	給付			
学習院女子大学協定留学生奨学金	500,000以内	対象者へ個別通知	給付	協定留学生対象		
学習院女子大学外国人留学生奨学金及び奨励金	奨学金 200,000 奨励金 300,000	G-Port・掲示による 募集しない・推薦制	給付	毎年申請		
学習院父母会奨学金	学部学生(家計急変者に限る) 授業料・施設設備費相当額	11月中旬	給付	採用1ヶ年在学中1回限り		
日本学生支援機構	学部学生	第1種(無利子)	自宅 月額54,000上限 自宅外 月額64,000上限	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種(有利子)	月額120,000上限			
	大学院生	第1種(無利子)	月額50,000または88,000	4月上旬	貸与	修了月まで貸与
		第2種(有利子)	希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万の いずれかを選択			
高等教育の 修学支援新制度 (学部生のみ)	授業料減免	年額700,000を上限として減免	4月上旬	給付(減免)	継続審査あり	
	日本学生支援機構 給付型奨学金	自宅 月額42,500上限 自宅外 月額75,800上限	4月上旬	給付	継続審査あり	
日本学生支援機構 外国人留学生学習奨励費	月48,000	募集しない・推薦制(※原則)	給付	採用1ヶ年 追加推薦あり		
その他公私機関による奨学金制度	その都度G-Port及び掲示参照					

NEW!
2022年度より
新設

学習院女子大学入学前予約型給付奨学金
「やわらぎ奨学金」のお知らせです

一般選抜(A・B方式)で本学に入学を希望する方を対象にした、予約型の給付奨学金です。

日本国内(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県以外)の高等学校等を卒業した方及び受験年度に卒業見込みの方から、本学学部一般選抜出願時期に合わせて申請を受け付け、採用候補者を決定し、本学学部一般選抜を受験・合格し、本学に入学後、所定の手続きを行うことで正式に採用されます。

給付金額	100万円
給付期間	入学年度に限り給付(入学後、2回に分けて給付予定)
採用候補者数	20名

詳細は学生部までお問い合わせください。

令和5年度 学年暦

4月	春季休業	1(土)~9(日)
	新入生ガイダンス	1(土)~8(土)
	健康診断	1(土)、3(月)
	入学式	4(火)
	雅祭	8(土)
5月	春学期授業開始	10(月)
	臨時休講	1(月)、2(火)
6月	開学記念日(開講日)	15(月)
7月	休日開講日	17(月)
	補講期間	24(月)
	春学期末試験	25(火)~31(月)
	春学期授業終了	31(月)
8月	春学期試験予備日	1(火)
	夏季休業	1(火)~9/17(日)
9月	追試験	11(月)、12(火)
	秋学期ガイダンス	13(水)~15(金)
	秋学期授業開始	18(月)
	休日開講日	18(月)、23(土)

10月	和祭準備(休講)	6(金)
	和祭(休講)	7(土)、8(日)
	和祭片付け(休講)	9(月)
	開院記念日(休講日)	17(火)
11月		
12月	振替休講日	20(水)、21(木)、23(土)
	冬季休業	24(日)~1/8(月)
1月	授業開始	9(火)
	補講期間	16(火)、17(水)
	秋学期末試験	22(月)~27(土)
	秋学期授業終了	27(土)
2月	春季休業	28(日)~3/31(日)
	秋学期試験予備日	7(水)
3月	秋学期追試験	13(火)、14(水)
	卒業式	19(火)
	在学生ガイダンス	21(木)~25(月)

令和6(2024)年度 105分授業の導入について

学習院女子大学では、令和6(2024)年度より授業時間を現行の90分から105分に変更することを決定いたしましたのでお知らせいたします。

105分授業(各学期13週)の導入により、アクティブラーニングの導入や地域連携活動・実習体験学習など本学の多様な学びの推進、夏季休業等の留学や海外研修などの時間をさらに確保することが可能となります。

令和6(2024)年度の授業週数変更に伴い、授業時間割を下記のとおり変更いたします。

時限	90分(現行)	105分(変更後)
第1時限	9時00分~10時30分	8時45分~10時30分
第2時限	10時40分~12時10分	10時40分~12時25分
昼休み	12時10分~13時00分(50分)	12時25分~13時15分(50分)
第3時限	13時00分~14時30分	13時15分~15時00分
第4時限	14時40分~16時10分	15時10分~16時55分
第5時限	16時20分~17時50分	17時05分~18時50分

学習院 父母会の 近況報告

学習院女子大学 父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 神山 直己

「ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしていきます。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活を送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の一翼を担う人材として成長することを願っているからです。

本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様とともに、ご息女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

● 父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度

(平成13年度創設)

学習院に在学する学生、生徒等で父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費(高等科以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額を学習院在学中1年度に限り給付するものです。令和4年度は3名(大学2名、女子大学1名)の学生へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度

(平成13年度創設)

現代は単に学問だけでなく、スポーツ文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

- ・各部・各クラブの備品用具等へ助成する一般助成金について、令和3年度は各学校合計43件でした。
- ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、令和3年度は各校合わせまして、優秀賞は団体2件、個人36件、奨励賞は団体2件、個人12件でした。

● 父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害」による被災者父母保証人へのお見舞い等

新潟県中越地震(平成16年)、福岡県西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生(大学及び女子大学に申請・認定の学生)に対して生活支援金(平成23年度の時限措置)を支給しました。

さらに、近年多発している大規模自然災害に対して、「父母会からの贈呈金に関する内規」を改正し、柔軟に対応できるようにしました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力

恒例の「オール学習院の集い」に対し

て、法人へ寄付をすると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。なお、本年度はコロナ禍にあつて開催中止となりました。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付

- ・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)
- ・学習院女子大学へ「グランドピアノ(スライムウェイC227)」の寄贈(平成21年)
- ・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用人形の寄贈(平成21年)
- ・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)
- ・校外施設(沼津游泳場・妙高高原)地デジ対応テレビ等買い替えの寄付(平成22年)
- ・幼稚園(ステンレス製オリジナル2連登り棒)を寄贈(平成23年)
- ・各学校(大学・幼稚園)へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈(平成24年)
- ・(女子大学用備蓄品として、アルファ米2,100食及びサバイバルパン2,016缶を寄贈)
- ・学習院大学へ西5号館1階「学生ホール」内設置の椅子188席を寄贈(平成26年)
- ・学習院大学へ「輔仁会館前噴水広場用屋外チェア16脚を寄贈(平成27年)
- ・初等科図画室内設置の机9台、材料台4台及び椅子36脚を寄贈(平成29年)
- ・学習院女子中・高等科総合体育館の綴帳一式を寄贈(平成29年)
- ・学習院中・高等科第2テニスコート人工芝化(オムニコート)工事費用の寄付(平成29年)
- ・各学校(大学・中・高等科、女子中・高等科、初等科)のAED新規設置に伴う費用の寄付(平成30年)

- ・学習院女子大学テニスコート(人工芝)新設・整備費用の寄付(平成30年)
- ・幼稚園電動「ひさし」設置工事費用の一部助成(平成30年)
- ・沼津 伝馬船「木造和船」一艘を寄贈(令和元年)
- ・学習院中等科・高等科第2体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和元年)
- ・百周年記念会館設置の演奏用椅子購入費用の一部助成(令和2年)
- ・初等科「図画室」工作台天板カバーほか寄贈(令和2年)
- ・女子大のAED新規設置に伴う費用の寄付(令和2年)
- ・学習院中等科・高等科第1体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和2年)
- ・学習院大学体育館の空調設置工事費用の一部助成(令和2年)
- ・各学校へのテント9張り寄贈(令和3年)
- ・大学へのアルコール消毒液の設置費用の寄付(令和3年)
- ・女子中・高等科第2体育館空調設備工事の一部助成(令和3年)
- ・MOS(マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト)資格受験料の一部助成(平成28年〜継続中)

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あるいは間接に学習院の経営、教育に参画、支援をしている組織です。皆様と共に、これからも学習院を支え、より良い学校にする努力を続けて参りたいと存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館2階にございます。

(ご用の節は、遠慮なく、ご連絡下さい。)

開室時間 月〜金 9時〜17時
(コロナ禍収束まで) 10時〜16時
TEL&FAX:03-3988-3226

草上会は、学習院女子大学(大学院含む)・学習院女子短期大学出身者による同窓会です。学習院全体の同窓会として桜友会がありますが、その一部会となります。

1959(昭和34)年11月に発足し、当時、学習院長であり女子短期大学学長でいらした安倍能成先生がわだかまりのない集いになるよう、マネの《草上の昼食》にちなみ会名をつけてくださいました。現在では、事務局を互敬会館3階に置き、会員の納める維持運営費に支えられ、会則に掲げる本会の目的「出身者の親睦、向上をはかり、母校の発展に寄与し、社会に貢献する」に則り活動を続けています。会員数も3万人を超え、20代から90代までの幅広い年齢層の集う会となりました。



歴代学長の色紙が並ぶ草上会ロビー

2022年度の主な活動

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により見合わせていた対面式の活動の一部を再開することができました。

4月9日

2号館222教室

学習院女子
大学学会
春の講演会

学習院女子大学名誉教授 荒井啓子先生
「華族女学校の女性スポーツ教育—近代日本における先駆的・啓蒙的展開—」

学習院女子大学准教授 橋本彩先生
「伝統行事か?スポーツか?の狭間でゆれるラオスの競漕祭」

新入生を迎えたばかりの春の戸山キャンパスで、草上会が後援する学会主催の講演会が開催されました。聴講対象を卒業生にも広げ、希望者にはZoom配信も行われたため、先生方、在学生とともに多くの会員が参加いたしました。



春の学会講演会

その他の活動

中止が続いておりましたオール学習院の集いは、2023年4月16日に4年ぶりに開催予定です。草上会も、ご来場の皆様にお休みいただく「花見茶屋」とお子様達に好評の「ヨーヨー釣り」で参加いたします。

女子大学学生の主催する4月の「雅祭」、10月の「和祭」では広告掲載の協力のみが続いておりますが、2023年度も引き続き支援協力を行ってまいります。

6月18日

やわらぎホール

総会・講演会

講演 学習院女子大学学長 大桃敏行先生
「学習院女子大学の教育の今とこれから」

3年ぶりに対面式での総会・講演会を開催いたしました。懐かしい母校での再会に加え、大桃先生の女子大学や学生への愛情が感じられるお話を伺い、静かなながらも和やかな時間を過ごすことができました。

2023年度は、6月17日に、リディラ代表の安部敏樹氏を講師にお迎えし、ホテル椿山荘東京にて開催予定です。



総会・講演会 大桃敏行学長のご講演

草上会内での月に一度の活動は休止していますが、会員有志が自宅で「フキン」を作製、新宿区社会福祉協議会にその手縫いのフキン200枚と車椅子2台を寄贈いたします。また、使用済み切手と外国コインを回収し、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)に持参いたします。

ボランティア

新宿区社会福祉協議会へ車椅子等の寄贈(2021年度)



01

高大連携事業に関する協定について

学習院女子大学は、山協学園高等学校と高大連携事業に関する協定を締結しました。

学習院女子大学と山協学園高等学校は、大学教員による総合型出張講義（一つのテーマを複数の学問分野から解釈することにより学際的視点の重要性を伝えようとする本学独自の出張授業形態）の実施など高大連携事業に取り組んできましたが、今回の協定によりさらに相互の連携を深めてまいります。

本協定は、高大接続の観点から両者の教育の質のさらなる向上を図るとともに、大学での学びについて理解を深める機会を提供することで高校生の進路選択に資することを目的としています。

【期待される連携の内容】

1. 本学の教育に関する大学説明会の開催
2. 高大接続に関する行動の研修会（高大連携セミナー）の開催
3. 協定校の生徒による本学の授業の参観
4. 協定校における本学教員による出張授業の実施
5. その他、本協定の目的にかなうもの

また、締結に伴い、2022年12月21日、学習院女子大学にて協定調印式を執り行いました。両校より、大学のリベラルアーツ教育と高等学校教育の共通点や、連携への期待が述べられました。



学習院女子大学は、神田女学園高等学校と高大連携事業に関する協定を締結しました。

本協定は、高大接続の観点から両者の教育の質のさらなる向上を図るとともに、大学での学びについて理解を深める機会を提供することで高校生の進路選択に資することを目的としています。

【期待される連携の内容】

1. 本学の教育に関する大学説明会の開催
2. 高大接続に関する合同の研修会（高大連携セミナー）の開催
3. 協定校の生徒による本学の授業の参観
4. 協定校における本学教員による出張授業の実施
5. その他、本協定の目的にかなうもの

また、締結に伴い、2023年1月17日、神田女学園中学校高等学校にて協定調印式を執り行いました。探求的な学びや学際的な学びを中心に意見交換がなされ、両校より連携への期待が述べられました。



02

新協定校が誕生しました！

ディーキン大学(オーストラリア)



学習院女子大学はこの度、本学の春季語学研修受け入れ大学であるオーストラリアの公立大学、ディーキン大学との学生派遣に限定した協定を締結いたしました。

この協定は、学生の教育面での充実・発展を図ることを目的とし、協定書は英文を正文として、2022年3月31日付で発効いたしました。

同大学はオーストラリアのメルボルン、ジーロング、ワーナンブールにキャンパスを構える1974年創立の4学部を擁する公立総合大学で、多くの留学生も学んでいることから、本学学生がオーストラリアのみならず他国の文化にも目を向ける機会を提供できると期待しております。

アサンプション大学人文学部(タイ)



学習院女子大学国際文化交流学部はこの度、タイの私立大学、タイ・アサンプション大学人文学部と学生交換を含む交流協定を締結いたしました。

この協定は、学生の教育面での充実・発展を図ることを目的とし、協定書は英文を正文として、学術協力協定は2022年7月29日、学生交換覚書は2022年10月12日付で発効いたしました。

同大学はタイ、バンコク市およびサムットプラカーン県にある私立大学で、授業が英語で行われていることから、非英語圏ながら本学学生を派遣しやすい学習環境が整っていると期待されます。

03

一般社団法人尚友倶楽部助成金事業

学習院女子大学長杯 留学生日本語スピーチコンテスト

令和4年12月10日(土)、一般社団法人尚友倶楽部助成金事業として、尚友倶楽部の牧野忠由常務理事のご来臨を賜り、4回目となる「学習院女子大学長杯 留学生日本語スピーチコンテスト」を開催いたしました。

コンテストには8ヵ国14名の留学生(中国、韓国、台湾、ベトナム、マレーシア、ロシア、エストニア、ハンガリー)が出演し、3つの中から各自が選んだテーマに沿ってスピーチを行いました。スピーチが終了するごとに、会場からは惜しみない拍手が送られていました。

今回は、地元商店会「明和会」の会長である吉田一雄様にも審査員に加わっていただいたことで、より一層、地域との連携を深めることができましたと感じております。

また、コンテストの審査時間を利用して、課外活動団体の「きもの文化部」による振袖着付・帯結び披露が行われ、来場者は一緒に写真撮影するなど、和やかな時間を過ごしました。



「第35回オール学習院の集い」開催のお知らせ

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院校友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催し、学生・生徒・児童・園児・教職員は勿論、卒業生・父母の方々、更には近隣にお住まいの方々の親睦と交流の場としてご好評を頂いております。

この催しは、春の一日、学習院のシンボルである桜の下、世代を超えて親睦と交流の輪を広げ、学習院との絆をより深めていただくとの趣旨で実施しているものです。

近年は、新型コロナウイルス感染症の影響で開催を見合わせてまいりましたが、令和5年度は感染対策を講じたうえで、4年ぶりに開催したいと存じます。

女子大学の学生団体も参加しますので、皆さんのお越しをお待ちしております。

日時

令和5年4月16日(日)
午前9時30分～午後4時00分(雨天決行)

会場

学習院目白キャンパス(豊島区目白1-5-1)

- ※ ご来場の際は、本院の感染対策へのご協力並びに、マスクの着用をお願いします。
- ※ 体調不良(発熱、咳、咽頭痛、倦怠感などの症状がある)の場合や、同居のご家族や身近なお知り合いに感染が疑われる方がいる場合には、来場をお控えいただきますよう、お願い申し上げます。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の感染状況等により、中止となる可能性がございます。中止の場合は、本院のホームページにてお知らせします。
- ※ 詳細は学校法人学習院のホームページ(<https://www.gakushuin.ac.jp/>)をご覧ください。

令和4年度 学習院女子大学 学生表彰 表彰者一覧

標記の件について、以下の団体および個人の方が表彰されました。

団体	チアリーダー部	第34回全日本学生チアリーディング選手権大会において、DIVISION1 応援団部門3位、DIVISION2 応援団部門優勝・準優勝の成績を収めたため。
団体	書道部	第31回全国書道展・全国教育書道展において、栃木県議会議長賞1名、(公財)栃木県国際交流協会理事長賞1名、宇都宮市議会議長賞1名、奨励賞3名の成績を収めたため。
個人	永田 綾	第39回産経国際書展においてU23かな部入選を果たしたため。 (約半数入選/総出品数5521点)
個人	馬 陸辞玉	①JAOS留学アワードにおいて、大学生・大学院生留学部門特別賞を受賞したため。(約100名中9名受賞) ②学習院女子大学長杯留学生日本語スピーチコンテストにおいて最優秀賞を受賞したため。(14名中第1位)
団体	きもの文化部	「2023全日本きもの装いコンテスト関東大会」学校対抗の部において、第1位の成績を収め、世界大会への出場権を得たため。 (1位/9校出場)
個人	鈴木 茂美	「2023全日本きもの装いコンテスト関東大会」振袖の部において、装いの準女王(2番目の順位)の成績を収め、世界大会への出場権を得たため。 (2番目の順位/23名)

学女PRアンバサダーについて

本学では、学生広報スタッフ「学女PRアンバサダー」(以下、アンバサダー)が、受験生に大学の魅力を伝えるべく活躍しています。アンバサダーは毎年度登録制の有志の集まりで、興味のある活動を登録しておくことで大学からオファーが届く仕組みです。主な活動は、オープンキャンパスの学生相談ブースやキャンパスツアーの実施、ノベルティの企画制作、学生ブログの執筆や写真撮影など多岐にわたります。

メンバーは「何か新しいことに挑戦したい」、「受験や学生生活の経験を後輩に役立てて欲しい」など様々な動機から参加しています。関心のある方は、お気軽にご登録ください。

2022年度 活動実績

・オープンキャンパス

学生相談ブースやキャンパスツアーを担当し、来場者に大学のこと、受験経験などをお話しました。



・ノベルティグッズの作成

オープンキャンパスや学校見学の来校者にお渡しするバッグとノベルティグッズを新たに作成中です。商品選定からデザインまでアンバサダーが担当しています。



・学生ブログ「はなかがり」

(<https://gwc-gakushuin.jp/hanakagari/>)

“受験生の入学までの道を照らしたい”という思いを込め、夜桜を觀賞するために焚くかがり火を意味する「華篝」からアンバサダーが命名しました。受験体験記の他、お勧めの授業や教員インタビューなど、学生目線で記事を企画・執筆しています。在学生にも参考になる内容となっています。

「学女PRアンバサダー」は、通年で登録を受け付けています。
ご興味がありましたら入試係までご連絡ください。

お問い合わせ先

学習院女子大学 入試係 gwc-off@gakushuin.ac.jp

yawaragi25号では、写真部の学生が撮影した写真を掲載しています。対象のページはP2、P12、P29です。



日本を学ぶ、
世界を知る、
英語で伝える。

 学習院女子大学

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

TEL 03-3203-1906 FAX 03-3203-8373

URL <https://www.gwc.gakushuin.ac.jp>